

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部設置							
フリガナ設置者		がかりのじん べっだいがく 学校法人 別府大学							
フリガナ大学の名称		べっだいがく 別府大学							
大学本部の位置		大分県別府市大字北石垣82番地							
大学の目的		建学の精神「真理はわれらを自由にする」を基礎にして、深く学問の学芸を教授研究し、もって高い専門能力と広い教養を身につけ、豊かな人間性を備え、進んで社会に貢献しようとする人材を養成するとともに、学術・文化・社会の発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		健康と生活に深くかかわる看護専門職として、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性と倫理観、確かな看護の専門的知識・実践力を有し、時代や社会の変化に伴う地域社会の健康課題について、多職種連携のもと自律的に行動できる人材、あわせて、自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	看護学部 看護学科	年	人	年次人	人	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	年 月 第 年次 令和7年4月 第1年次	大分県別府市北石垣82番地 大分県別府市大字内竜1430番地
	計	4	80	—	320				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		文学部 国際言語・文化学科[定員減]（△20）（令和7年4月） 食物栄養科学部 食物栄養学科[定員減]（△10）（令和7年4月） 別府大学短期大学部 食物栄養科[定員減]（△10）（令和7年4月）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数	
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		64科目	52科目	15科目	131科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	看護学部 看護学科	人 10 (6)	人 3 (3)	人 6 (1)	人 8 (5)	人 27 (15)	人 2 (2)	人 79 (59)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (6)	3 (3)	6 (1)	8 (5)	27 (15)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	10 (6)	3 (3)	6 (1)	8 (5)	27 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	10 (6)	3 (3)	6 (1)	8 (5)	27 (15)			
分	計	10 (6)	3 (3)	6 (1)	8 (5)	27 (15)	2 (2)	— (—)	

既	文学部 国際言語・文化学科		10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	36 (36)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)						
	文学部 史学・文化財学科		10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)			14 (14)		0 (0)	31 (31)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)						
	文学部 人間関係学科		4 (4)	5 (5)	1 (1)	0 (0)						10 (10)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	10 (10)							
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
小計（a～b）	4 (4)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	10 (10)							
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計（a～d）	4 (4)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	10 (10)							
食物栄養科学部 食物栄養学科		10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)			12 (12)		0 (0)		8 (8)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)							
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
小計（a～b）	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)							
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計（a～d）	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)							

分	食物栄養科学部 発酵食品学科						6 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	9 (9)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						6 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (7)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）						6 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）						6 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (7)			
	国際経営学部 国際経営学科						10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	8 (8)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの						10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）						10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）						10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	計						50 (50)	17 (17)	7 (7)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	— (—)	
	合 計						60 (56)	20 (20)	13 (8)	8 (5)	101 (89)	2 (2)	— (—)	

職 種				専 属		その他		計							
事 務 職 員				58 (58)		0 (0)		58 (58)							
技 術 職 員				0 (0)		0 (0)		0 (0)							
図 書 館 職 員				1 (1)		8 (8)		9 (9)							
そ の 他 の 職 員				3 (3)		0 (0)		3 (3)							
指 導 補 助 者				0 (0)		310 (74)		310 (74)							
計				62 (62)		318 (82)		380 (144)							
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		別府大学短期大学部（必要面積5,000㎡）と共用 【亀川キャンパス】 借用する既存校舎の敷地（専用） 借用面積1,871㎡ 借用期間20年 借用する新校舎用の敷地（専用） 借用面積924㎡ 借用期間21年2ヵ月				
	校 舎 敷 地		5,483㎡		62,459㎡		22,628㎡		90,570㎡						
	そ の 他		3,036㎡		10,473㎡		0㎡		13,509㎡						
	合 計		8,519㎡		72,932㎡		22,628㎡		104,079㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		別府大学短期大学部（必要面積4,600㎡）と共用 【亀川キャンパス】 借用する既存校舎の面積（専用） 借用面積3,299㎡ 借用期間20年				
			29,376㎡ (29,376㎡)		8,496㎡ (8,496㎡)		14,302㎡ (14,302㎡)		52,174㎡ (52,174㎡)						
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		303室		教 員 研 究 室		31室		教室は大学全体 教員研究室は看護学部の数				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図 書		学術雑誌		機械・器具		標 本		大学全体での共用分 【石垣キャンパス】 図 書 369,066冊 〔うち外国書〕 39,714冊 電子図書 111 〔うち外国書〕 0 学術雑誌 3,401種 〔うち外国書〕 255種 電子ジャーナル 4 〔うち外国書〕 4				
			〔うち外国書〕 冊 〔うち外国書〕		〔うち外国書〕 種 〔うち外国書〕		点 点								
	看護学部		13,679〔50〕 (13,479〔50〕)		14〔0〕 (14〔0〕)		21〔5〕 (21〔5〕)		2〔2〕 (2〔2〕)			8,639 (7,305)		0 (0)	
	計		13,679〔50〕 (13,479〔50〕)		14〔0〕 (14〔0〕)		21〔5〕 (2〔2〕)		2〔2〕 (2〔2〕)			8,639 (7,305)		0 (0)	
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設				大学全体 厚生補導施設 借用面積955㎡ 借用期間20年				
			1,919㎡		0㎡		4,112㎡								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	－ 千円	－ 千円						
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－ 千円	－ 千円						
		図 書 購 入 費	7,185千円	1,596千円	1,654千円	1,725千円	1,801千円	－ 千円	－ 千円						
	設 備 購 入 費	162,866千円	155,733千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－ 千円	－ 千円							
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
				1,680千円	1,480千円	1,480千円	1,480千円	－ 千円	－ 千円						
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、特定公益増進法人（学校法人）に対する寄附金、学園全体の資産運用収入等を充当する。												

	大 学 等 の 名 称	別府大学、別府大学短期大学部							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況		年	人	年次 人	人		倍		
	文学部						1.09 《1.05》		
	国際言語・文化学科	4	100	—	400	学士（文学）	0.95 《0.92》	平成21 年度	
	史学・文化財学科	4	100	—	400	学士（文学）	1.14 《1.11》	平成21 年度	
	人間関係学科	4	70	—	280	学士（文学）	1.21 《1.17》	平成12 年度	
	食物栄養科学部						0.87 《0.86》		
	食物栄養学科	4	70	7	294	学士（栄養学）	0.95 《0.94》	平成14 年度	
	発酵食品学科	4	50	—	200	学士 （食物バイオ学）	0.76 《0.75》	平成21 年度	
	国際経営学部						1.12 《1.08》		
	国際経営学科	4	100	—	400	学士（経営学）	1.12 《1.08》	平成21 年度	
	<大学院>								
	文学研究科								
	日本語・日本文学専攻 博士前期課程 （修士課程）	2	10	—	20	修士（文学）	0 《0》	平成10 年度	大分県別府市大字 北石垣82番地
	日本語・日本文学専攻 博士後期課程	3	3	—	9	博士（文学）	0 《0》	平成12 年度	
	史学・文化財学専攻 博士前期課程 （修士課程）	2	10	—	20	修士（文学）	0.75 《0.75》	令和3 年度	
	史学・文化財学専攻 博士後期課程	3	3	—	9	博士（文学）	0 《0》	令和3 年度	
	臨床心理学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（文学）	0.75 《0.75》	平成16 年度	
	食物栄養科学研究科								
	食物栄養学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（栄養学）	0.05 《0.05》	平成18 年度	
	<短期大学部>								
	食物栄養科	2	50	—	100	短期大学士 （栄養学）	1 《1》	昭和29 年度	
	初等教育科	2	200	—	400	短期大学士 （教育学）	1.03 《1.02》	昭和29 年度	

附属施設の概要	名称：別府大学附属博物館 所在地：大分県別府市大字北石垣82番地	平成11年3月	目的 歴史・考古・民族・美術工芸に関する収集・保管・展示及び調査研究を行い、あわせて本学の学芸員養成に係る実習施設として使用することを目的とする。 規模等：328㎡	
	名称：別府大学アジア歴史文化研究所 所在地：大分県別府市桜ヶ丘5組2	昭和56年4月	目的 アジア諸地域の人文・社会・自然に関する調査研究を推進するため、関連機関との交流、各種資料の収集・整理・保管するとともに、研究会・講座等を開催することを目的とする。 規模等：42㎡	
	名称：別府大学メディア教育・研究センター 所在地：大分県別府市大字北石垣82番地	平成18年4月	目的 情報教育と教育の情報化、学術の情報処理、情報通信技術に関する研究及び支援、メディア教材の開発及び支援、学内外に提供する情報サービスシステムの研究及び開発、本学のネットワークの管理運営並びにネットワークに関する技術指導及びセキュリティ全般に関すること、情報通信技術を利用した地域連携の推進することを目的とする。 規模等：建物面積1,372㎡	
	名称：別府大学文化財研究所 所在地：大分県別府市桜ヶ丘5組2	平成10年4月	目的 本学が長年にわたって積み上げた、歴史・文化財の調査研究の実績を踏まえ、地域及び国内外の歴史と文化財の調査研究を進め、時代と社会の要請に応える「文化財学」の構築と発展並びに地元自治体や他の研究機関等と提携し、地域に密着した調査・研究活動を行い、地域の学術文化の振興と文化遺産を生かした地域づくりに寄与することを目的とする。 規模等：52㎡	
	名称：別府大学歴史文化総合研究センター 所在地：大分県別府市桜ヶ丘5組2	平成11年3月	目的 別府大学及び大学院のための実習室等の施設、附属博物館新館、附属研究所などを1ヶ所に集積した複合的な教育研究施設です。 規模等：建物面積1,788㎡	
	名称：アーカイブズ・センター 所在地：大分県別府市大字北石垣82番地	平成18年4月	目的 別府大学関係のアーカイブズ及び大分県を中心とした地域アーカイブズの収集、整理、保管、公開並びに地域や大学史資料の展示、公開講座などの社会教育活動、文書館専門職養成課程の学生への教育実習を行う施設として使用することを目的としている。 規模等：108㎡	
	名称：大分香りの博物館 所在地：大分県別府市大字北石垣82番地	平成19年11月	目的 旧大分香りの森博物館の収蔵品等を大分県から貸付を受け香りの歴史や文化をわかりやすく展示し、教育・研究の場として芸術的価値を持つ収蔵品の観賞や香りの体験学習の場を広く社会に提供し、あわせて学芸員養成に係る実習施設として使用することを目的とする。 規模等：建物面積1,633㎡	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（看護学部看護学科等）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
看護学部看護学科等	看護学部基盤ゼミ	基盤ゼミ導入演習	1前		1				○		4		1	5		共同
		基盤ゼミ発展演習	3前		1				○		2	2	1	5		共同（一部）
		小計（2科目）	—	—	2	0	0	—	—	6	2	1	6	0	0	—
	コア1 学際科目	大学史と別府大学	1前		1			○								7 オムニバスメディア
		地域と世界農業遺産	1前			2		○	※							4 オムニバス※演習
		グローバルと文化	1後			2		○	※							7 オムニバス共同（一部）※演習
		キャリア教育Ⅰ	1前			2		○								1 ※演習メディア
		災害支援と防災対策	1通			2		○	※							1 ※演習
		地域フィールドワーク演習	1通		1			○		6	1	3	4			共同
		小計（6科目）	—	—	2	8	0	—	—	6	1	3	4	0	19	—
	コア2 人間と文化の探求	哲学	1前			2		○								1
		文学	1後			2		○								1
		心理学Ⅰ	1前			2		○								1
		歴史学	1前			2		○								1
		生命倫理学	1後		2			○								1
		スポーツと健康	1後			2		○	※							1 ※実技
		小計（6科目）	—	—	2	10	0	—	—	0	0	0	0	0	5	—
	コア3 現代社会の多面的理解	経済学	1後			2		○								1
		地域福祉論	1後			2		○								1
		教育学	1後		2			○								1
		国際関係論	1後			2		○								1
		法律学	1前			2		○								1
		マスコミ論	1後			2		○								1
		人権教育論	1前			2		○								1
		ボランティア活動論	1前			2		○								1
		法学（日本国憲法）	1前			2		○								1
		小計（9科目）	—	—	2	16	0	—	—	0	0	0	0	0	7	—
	コア4 科学と情報	論理学	1後		2			○								1
		生物学	1前			2		○								3
		数学基礎Ⅰ	1前			1			○							1
		アルゴリズムとプログラミング	1後			1			○							1
		統計学Ⅰ	1前		1				○							1
		数理・データサイエンス入門	1後		2				○							1
		データサイエンス基礎	1後			1			○							1
		データエンジニアリング基礎	2前			1			○							1
		AⅠ基礎	2前			1			○							1
		情報リテラシー	1前		1				○							1
		小計（10科目）	—	—	6	7	0	—	—	0	0	0	0	0	8	—
	コア5 国際理解のための言語	医療英語コミュニケーション	2前		1				○							1
		英語Ⅰ（A）	1前			1			○							1
		英語Ⅰ（M）	1前			1			○							1
		英語Ⅰ（B）	1前			1			○							2
		英語Ⅱ（A）	1後			1			○							1
		英語Ⅱ（M）	1後			1			○							1
		英語Ⅱ（B）	1後			1			○							2
		中国語基礎Ⅰ	1前			1			○							1
		中国語基礎Ⅱ	1後			1			○							1
		韓国語基礎Ⅰ	1前			1			○							1
		韓国語基礎Ⅱ	1後			1			○							1
		小計（11科目）	—	—	1	10	0	—	—	0	0	0	0	0	7	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	
専門基礎分野	生物学的人間理解	生命科学	1前	○	1			○			1						
		生体機能の調節Ⅰ	1前	○	1			○			1						
		生体機能の調節Ⅱ	1前	○	1			○			1						
		生体機能の調節Ⅲ	1後	○	1			○			1						
		生体機能シミュレーション演習	1後	○	1				○		1						
		小計（5科目）	—	—	5	0	0	—	—		1	0	0	0	0	0	—
	疾病と回復過程の理解	病態・治療論	1前		1			○									2 オムニバス
		生命維持機能の障害と診断治療	1前		1			○									3 オムニバス
		運動機能の障害と診断治療	1前		1			○									7 オムニバス
		代謝機能の障害と診断治療	1後		1			○									4 オムニバス
		生殖機能の障害と診断治療	1後		1			○									2 オムニバス
		薬理学	1後		1			○									3 オムニバス
		臨床薬理学	2前		1			○									3 オムニバス
		放射線療法と人間の反応	2後		1			○									2 オムニバス
		心理学的支援法	2前		1			○									1
		リハビリテーションと人間の反応	2前		1			○									3 オムニバス
		健康と栄養	1後		1			○									1
		小計（11科目）	—	—	11	0	0	—	—		0	0	0	0	0	30	—
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生看護学概論	2前	○	2			○			1						
		疫学	2後			2		○									1
		AⅠ・データサイエンス実践	2後			2			○	※							1 メディア
		保健統計学	2後		2			○					1				1 ※演習
		保健医療福祉行政論	2後	○	2												
		小計（5科目）	—	—	6	4	0	—	—		1	0	1	0	0	3	—
専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1前	○	2			○			1						
		看護理論	1後	○	1			○			1	1					
		看護過程論	1後	○	1				○		1			1			
		看護コミュニケーション論	1前	○	1			○	※		2			1			オムニバス 共同 オムニバス 共同（一部）
		ヘルスアセスメント	1後	○	1				○		3		1		2		共同
		基礎看護方法論Ⅰ	1後	○	2			○			2		1	1	2		共同
		基礎看護方法論Ⅱ	2前	○	1			○			2		1	1			共同
		基礎看護方法論Ⅲ	2前	○	1			○			1		1				共同
		家族看護論	2後	○	1			○			1			1			オムニバス
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	○	1					○	2	1	2	5	2		共同
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	○	2					○	2		1	1	2		共同
		小計（11科目）	—	—	14	0	0	—	—		4	2	2	6	2	0	—
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	2前	○	1			○			1						
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	2前	○	2				○		1	1		1			共同（一部）
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	2後	○	2				○		1	1		1			共同（一部）
		地域・在宅看護シミュレーション演習	2後	○	1				○		1	1		1			共同
		地域・在宅看護学実習Ⅰ	2後	○	1					○	1	1	1	2	2		共同
		地域・在宅看護学実習Ⅱ	3後	○	2					○	2	1	2	1	1		共同
		小計（6科目）	—	—	9	0	0	—	—		2	1	3	2	2	0	—
	成人看護学	成人看護学概論	2前	○	1			○				1					
		成人看護援助論Ⅰ	2前	○	2				○			2	1	1			オムニバス 共同（一部）
		成人看護援助論Ⅱ	2後	○	2				○			2	1	1			オムニバス 共同（一部）
		成人看護援助論Ⅲ	2後	○	1				○			2	1	1			オムニバス 共同（一部）
		成人看護シミュレーション演習	3前	○	1				○			2	1	1			共同
		成人看護学実習Ⅰ	3後	○	2					○		1	1				共同
		成人看護学実習Ⅱ	3後	○	2					○		1		1			共同
		小計（7科目）	—	—	11	0	0	—	—		0	2	1	1	0	0	—
	老年看護学	老年看護学概論	2前	○	1			○			1						
		老年看護援助論	2前	○	2				○		1		1	1			共同
		老年看護シミュレーション演習	2後	○	1				○		1		1	1			共同
		老年看護学実習	3後	○	2					○	1		1	1			共同
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—	—		1	0	1	1	0	0	—
	小児看護学	小児看護学概論	2前	○	1			○			1						
		小児看護援助論	2前	○	2				○		1			1			共同
		小児看護シミュレーション演習	2後	○	1				○		1			1			共同
		小児看護学実習	3後	○	2					○	1			1			共同
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—	—		1	0	0	1	0	0	—

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
専門科目群	母性看護学	母性看護学概論	2後	○	1			○			1						共同 共同 共同 共同		
		母性看護援助論Ⅰ	3前	○	2					1									
		母性看護援助論Ⅱ	3前	○	1				○	1			2						
		母性看護シミュレーション演習	3前	○	1				○	1			2						
		母性看護学実習	3後	○	2					1			2						
		小計（5科目）	—	—	7	0	0	—	1	0	0	2	0	0	—				
	精神看護学	精神看護学概論	2後	○	1			○			1						オムニバス 共同 共同		
		精神看護援助論	3前	○	2			○		1		1	1						
		精神看護シミュレーション演習	3前	○	1				○	1		1	1						
		精神看護学実習	3後	○	2				○	1		1	1						
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—	1	0	1	1	0	0	—				
	国際看護学	国際看護活動論	4後		1			○						1		1	オムニバス		
		海外研修	2・3・4休			1					1								
		小計（2科目）	—	—	1	1	0	—	0	1	0	1	0	1	—				
	看護の統合と発展	看護管理論	3前			2		○			1				2		※演習 オムニバス 共同（一部） ※演習 共同 共同（一部） オムニバス オムニバス 共同 共同 共同		
		医療安全マネジメント論	2後	○	1			○	※	1					2				
		看護研究の基礎	3前	○	2			○	※	2	1								
		看護研究の実践	4通	○	2				○	10	3	6	2						
		がん看護	4後			1		○			1		1						
		クリティカルケア	4後			1		○							3				
		リエゾン精神看護	4後			1		○		1									
		災害看護	2後			1		○							2				
		災害支援チーム医療論	4通	○	1				○	1		4	7		3				
		看護統合シミュレーション演習	4前	○	1				○		1	4	6	2					
		看護マネジメント実習	4前	○	2					6	3	4	8						
		総合看護実習	4前	○	3				○	6	2	4	8	2					
	小計（12科目）	—	—	12	6	0	—	10	3	6	8	2	7	—					
	公衆衛生看護学	保健医療福祉行政活動論	3前	○		2			○		1		1				共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同 共同 共同 共同		
		公衆衛生看護支援論Ⅰ	3前	○		2			○		1		2						
		公衆衛生看護支援論Ⅱ	3前	○		2			○		1		2						
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	3前	○		2		○		1		2							
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	3前	○		2		○		1		2							
		公衆衛生看護活動展開論Ⅲ	4前	○		2			○	1		2							
		公衆衛生看護活動展開論Ⅳ	4前	○		2			○	1		2							
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	4前	○		2		○		1									
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	4前	○		2		○			1								
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	○		3				1		2		1					
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前	○		2			○	1		2		1					
	小計（11科目）	—	—	0	23	0	—	1	0	2	0	1	0	—					
合計（131科目）				—	—	109	85	0	—	10	3	6	8	2	79	—			
学位又は称号		学士（看護学）				学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等									
【卒業要件及び履修方法】 教養科目群：27単位以上（必修科目：15単位、選択科目：10単位以上、「英語Ⅰ（Ａ）」「英語Ⅰ（Ｍ）」「英語Ⅰ（Ｂ）」のいずれか1単位、「英語Ⅱ（Ａ）」「英語Ⅱ（Ｍ）」「英語Ⅱ（Ｂ）」のいずれか1単位） 専門科目群：97単位以上（専門基礎分野 必修科目：22単位、専門分野 必修科目：72単位、国際看護学及び看護の統合と発展の選択科目：3単位以上） 合計：124単位以上 【保健師国家試験受験資格を取得する者の履修方法】 卒業要件：124単位以上 専門科目群：25単位（専門基礎分野「疫学」：2単位、専門分野 公衆衛生看護学の全科目：23単位） 合計：149単位以上 （履修科目の登録上限：前期24単位、後期24単位、年間48単位）										1学年の学期区分			2学期						
										1学期の授業期間			15週						
										1時限の授業の標準時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(看護学部看護学科等)																				
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員		
教 養 科 目 群	コ ア 科 目	コア1 学際科目	地域と世界農業遺産	1前			2		○	※							4	オムニバス ※演習 オムニバス 共同(一部) ※演習 ※演習		
			グローバルと文化	1後			2		○	※							7			
			災害支援と防災対策	1通			2		○	※							1			
			小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	12	—			
		コア2 人間と文化の 探求	哲学	1前			2		○									1		
			文学	1後			2		○									1		
			心理学Ⅰ	1前			2		○									1		
			歴史学	1前			2		○									1		
			生命倫理学	1後	2			○									1			
			小計(5科目)	—	—	2	8	0	—	—	0	0	0	0	0	4	—			
		コア3 現代社会の多 面的理解	経済学	1後			2		○									1		
			地域福祉論	1後			2		○									1		
			教育学	1後	2			○										1		
			国際関係論	1後		2		○										1		
			法律学	1前		2		○										1		
			マスコミ論	1後		2		○										1		
			人権教育論	1前		2		○										1		
			ボランティア活動論	1前		2		○										1		
			法学(日本国憲法)	1前		2		○										1		
			小計(9科目)	—	—	2	16	0	—	—	0	0	0	0	0	7	—			
		コア4 科学と情報	論理学	1後		2		○										1		
			小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	0	0	0	0	0	1	—			
		コア5 国際理解のた めの言語	英語Ⅰ(A)	1前			1			○									1	
			英語Ⅰ(M)	1前			1			○									1	
			英語Ⅰ(B)	1前			1			○									2	
			英語Ⅱ(A)	1後			1			○									1	
			英語Ⅱ(M)	1後			1			○									1	
			英語Ⅱ(B)	1後			1			○									2	
			中国語基礎Ⅰ	1前			1			○									1	
			中国語基礎Ⅱ	1後			1			○									1	
			韓国語基礎Ⅰ	1前			1			○									1	
			韓国語基礎Ⅱ	1後			1			○									1	
		小計(10科目)			—	—	0	10	0	—	—	0	0	0	0	0	6	—		
合計(28科目)			—	—	6	40	0	—	—	0	0	0	0	0	25	—				
学位又は称号			学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)											
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法									授業期間等											
【卒業要件及び履修方法】 教養科目群：27単位以上(必修科目：15単位、選択科目：10単位以上、「英語Ⅰ(A)」「英語Ⅰ(M)」「英語Ⅰ(B)」のいずれか1単位、「英語Ⅱ(A)」「英語Ⅱ(M)」「英語Ⅱ(B)」のいずれか1単位) 専門科目群：97単位以上(専門基礎分野 必修科目：22単位、専門分野 必修科目：72単位、国際看護学及び看護の統合と発展の選択科目：3単位以上) 合計：124単位以上 【保健師国家試験受験資格を取得する者の履修方法】 卒業要件：124単位以上 専門科目群：25単位(専門基礎分野「疫学」：2単位、専門分野 公衆衛生看護学の全科目：23単位) 合計：149単位以上 (履修科目の登録上限：前期24単位、後期24単位、年間48単位)									1学年の学期区分			2学期								
									1学期の授業期間			15週								
									1時限の授業の標準時間			90分								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(看護学部看護学科等)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
教養科目群	看護学部基盤ゼミ	基盤ゼミ導入演習	1前		1			○		4		1	5			共同
		基盤ゼミ発展演習	3前		1			○		2	2	1	5			共同(一部)
		小計(2科目)	—	—	2	0	0	—		6	2	1	6	0	0	—
	コア1 学際科目	大学史と別府大学	1前		1		○								7	オムニバス メディア
		キャリア教育 I	1前			2	○								1	メディア
		地域フィールドワーク演習	1通		1			○		6	1	3	4			共同
		小計(3科目)	—	—	2	2	0	—		6	1	3	4	0	8	—
	コア2 人間と文化の 探求	スポーツと健康	1後			2	○		※						1	※実技
		小計(1科目)	—	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	1	—
	コア4 科学と情報	生物学	1前			2	○								3	オムニバス メディア
		数学基礎 I	1前			1		○							1	メディア
		アルゴリズムとプログラミング	1後			1		○							1	メディア
		統計学 I	1前		1			○							1	メディア
		数理・データサイエンス入門	1後		2			○							1	メディア
		データサイエンス基礎	1後			1		○							1	メディア
		データエンジニアリング基礎	2前			1		○							1	メディア
		AI 基礎	2前			1		○							1	メディア
		情報リテラシー	1前		1			○							1	メディア
		小計(9科目)	—	—	4	7	0	—		0	0	0	0	0	7	—
	コア5 国際理解のた めの言語	医療英語コミュニケーション	2前		1			○							1	
		小計(1科目)	—	—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	1	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
専門 基礎分野	生物学の人間理解	生命科学	1前	○	1			○			1						
		生体機能の調節Ⅰ	1前	○	1			○			1						
		生体機能の調節Ⅱ	1前	○	1			○			1						
		生体機能の調節Ⅲ	1後	○	1			○			1						
		生体機能シミュレーション演習	1後	○	1				○		1						
		小計（5科目）	—	—	5	0	0	—			1	0	0	0	0	0	—
		病態・治療論	1前		1			○									2 オムニバス
		生命維持機能の障害と診断治療	1前		1			○									3 オムニバス
		運動機能の障害と診断治療	1前		1			○									7 オムニバス
		代謝機能の障害と診断治療	1後		1			○									4 オムニバス
		生殖機能の障害と診断治療	1後		1			○									2 オムニバス
		薬理学	1後		1			○									3 オムニバス
		臨床薬理学	2前		1			○									3 オムニバス
		放射線療法と人間の反応	2後		1			○									2 オムニバス
		心理学的支援法	2前		1			○									1 オムニバス
		リハビリテーションと人間の反応	2前		1			○									3 オムニバス
		健康と栄養	1後		1			○									1
		小計（11科目）	—	—	11	0	0	—			0	0	0	0	0	30	—
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生看護学概論	2前	○	2			○			1						
		疫学	2後			2		○									1
		AI・データサイエンス実践	2後			2			○	※							1
		保健統計学	2後		2			○					1				1
		保健医療福祉行政論	2後	○	2			○									1
		小計（5科目）	—	—	6	4	0	—			1	0	1	0	0	3	—
	専門 科目群	基礎看護学	看護学概論	1前	○	2		○			1						
			看護理論	1後	○	1		○			1	1					
			看護過程論	1後	○	1			○		1			1			
			看護コミュニケーション論	1前	○	1		○	※		2			1			
			ヘルスアセスメント	1後	○	1			○		3		1		2		
			基礎看護方法論Ⅰ	1後	○	2			○		2		1	1	2		
			基礎看護方法論Ⅱ	2前	○	1			○		2		1	1			
			基礎看護方法論Ⅲ	2前	○	1			○		1		1				
			家族看護論	2後	○	1		○			1			1			
			基礎看護学実習Ⅰ	1前	○	1				○	2	1	2	5	2		
			基礎看護学実習Ⅱ	2前	○	2				○	2		1	1	2		
		小計（11科目）	—	—	14	0	0	—			4	2	2	6	2	0	—
		地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	2前	○	1		○			1						
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2前	○	2			○		1	1		1			
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	2後	○	2			○		1	1		1			
			地域・在宅看護シミュレーション演習	2後	○	1			○		1	1		1			
			地域・在宅看護学実習Ⅰ	2後	○	1				○	1	1	1	2	2		
			地域・在宅看護学実習Ⅱ	3後	○	2				○	2	1	2	1	1		
		小計（6科目）	—	—	9	0	0	—			2	1	3	2	2	0	—
		成人看護学	成人看護学概論	2前	○	1		○				1					
			成人看護援助論Ⅰ	2前	○	2			○			2	1	1			
			成人看護援助論Ⅱ	2後	○	2			○			2	1	1			
			成人看護援助論Ⅲ	2後	○	1			○			2	1	1			
			成人看護シミュレーション演習	3前	○	1			○			2	1	1			
			成人看護学実習Ⅰ	3後	○	2				○		1	1				
			成人看護学実習Ⅱ	3後	○	2				○		1		1			
		小計（7科目）	—	—	11	0	0	—			0	2	1	1	0	0	—
		老年看護学	老年看護学概論	2前	○	1		○			1			1			
			老年看護援助論	2前	○	2			○		1		1	1			
			老年看護シミュレーション演習	2後	○	1			○		1		1	1			
			老年看護学実習	3後	○	2				○	1		1	1			
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			1	0	1	1	0	0	—
		小児看護学	小児看護学概論	2前	○	1		○			1						
			小児看護援助論	2前	○	2			○		1			1			
			小児看護シミュレーション演習	2後	○	1			○		1			1			
			小児看護学実習	3後	○	2				○	1			1			
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			1	0	0	1	0	0	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（ 助手を除く） 教員以外の教員	
専門科目群	母性看護学	母性看護学概論	2後	○	1			○			1						共同 共同 共同 共同	
		母性看護援助論Ⅰ	3前	○	2				○		1			2				
		母性看護援助論Ⅱ	3前	○	1				○		1			2				
		母性看護シミュレーション演習	3前	○	1				○		1			2				
		母性看護学実習	3後	○	2					○	1			2				
		小計（5科目）	—	—	7	0	0		—		1	0	0	2	0	0		—
	精神看護学	精神看護学概論	2後	○	1				○			1					オムニバス 共同 共同	
		精神看護援助論	3前	○	2				○		1		1	1				
		精神看護シミュレーション演習	3前	○	1					○		1		1	1			
		精神看護学実習	3後	○	2						○	1		1	1			
	小計（4科目）		—	—	6	0	0		—		1	0	1	1	0	0	—	
	国際看護学	国際看護活動論	4後		1				○						1		オムニバス	
		海外研修	2・3・4休			1						1						
	小計（2科目）		—	—	1	1	0		—		0	1	0	1	0	1	—	
	看護の統合と発展	看護管理論	3前			2			○			1				2	※演習 オムニバス 共同（一部） ※演習 共同 共同（一部） オムニバス オムニバス 共同 共同 共同	
		医療安全マネジメント論	2後	○	1				○	※		1				2		
		看護研究の基礎	3前	○	2				○	※		2	1					
		看護研究の実践	4通	○	2					○		10	3	6	2			
		がん看護	4後			1			○				1		1			
		クリティカルケア	4後			1			○							3		
		リエゾン精神看護	4後			1			○			1						
		災害看護	2後			1			○							2		
		災害支援チーム医療論	4通	○	1					○		1		4	7	3		
		看護統合シミュレーション演習	4前	○	1					○			1	4	6	2		
		看護マネジメント実習	4前	○	2						○		6	3	4	8		
		総合看護実習	4前	○	3						○		6	2	4	8		
	小計（12科目）		—	—	12	6	0		—		10	3	6	8	2	7	—	
	公衆衛生看護学	保健医療福祉行政活動論	3前	○		2				○				1			共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同（一部） 共同 共同	
		公衆衛生看護支援論Ⅰ	3前	○		2				○		1		2				
		公衆衛生看護支援論Ⅱ	3前	○		2				○		1		2				
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	3前	○		2			○		1		2					
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	3前	○		2			○		1		2					
		公衆衛生看護活動展開論Ⅲ	4前	○		2				○		1		2				
		公衆衛生看護活動展開論Ⅳ	4前	○		2				○		1		2				
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	4前	○		2			○		1							
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	4前	○		2			○				1					
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	○		3					○		1		2			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前	○		2					○		1		2			
	小計（11科目）		—	—	0	23	0		—		1	0	2	0	1	0	—	
合計（103科目）			—	—	103	45	0		—		10	3	6	8	2	57	—	
学位又は称号			学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
【卒業要件及び履修方法】 教養科目群：27単位以上（必修科目：15単位、選択科目：10単位以上、「英語Ⅰ（Ａ）」「英語Ⅰ（Ｍ）」「英語Ⅰ（Ｂ）」のいずれか1単位、「英語Ⅱ（Ａ）」「英語Ⅱ（Ｍ）」「英語Ⅱ（Ｂ）」のいずれか1単位） 専門科目群：97単位以上（専門基礎分野 必修科目：22単位、専門分野 必修科目：72単位、国際看護学及び看護の統合と発展の選択科目：3単位以上） 合計：124単位以上 【保健師国家試験受験資格を取得する者の履修方法】 卒業要件：124単位以上 専門科目群：25単位（専門基礎分野「疫学」：2単位、専門分野 公衆衛生看護学の全科目：23単位） 合計：149単位以上 （履修科目の登録上限：前期24単位、後期24単位、年間48単位）									1 学年の学期区分			2学期						
									1 学期の授業期間			15週						
									1 時限の授業の標準時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部看護学科等）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	看護学部基盤ゼミ	基盤ゼミ導入演習	本演習は、専門分野（看護学）の学習の準備段階に当たり、大学で学ぶためのアカデミックスキルやチーム力を身につけるとともに、看護学の学修の動機づけを高めることを目標とする。小グループでの協同学習を基本として、共通の課題演習を通して、「グループワークとプレゼンテーションスキル」「リーディングスキルとノートテイキング」「レポートの書き方」「文献検索と情報の整理」について学ぶ。さらに、グループごとに関心のある看護の課題について探求したいテーマを決定し、文献検討あるいは調査を行い、学修成果のプレゼンテーションおよび全体討議を行う。この演習を通して学生は、大学で学ぶということの意義や方法が明確になり、目的をもって学修に取り組むことができるようになる。 （1 村中陽子・3 藤内美保・5 松永智子・9 白石裕士・21 栗林好子・④岩崎景子・24 原田千恵子・25野中智恵・26渡邊めぐみ・27河野修）（共同）	共同
		基盤ゼミ発展演習	本演習は、自己の将来像に関するビジョンを明確にすることを目的にする。看護職に対する社会的評価、看護師不足の動向、看護職が抱く倫理的課題、ワークライフバランスと多様な働き方等、今日の課題について広く調べ、自己のキャリアデザインを主体的に描くことを目指す。この演習により、学生は入学時の看護職を目指した理由を客観的に見直すことが出来、理想とする将来像の具体化に繋がり、明確な目標を持って学習に取り組むことが出来る。 （共同（一部）/全8回） （10 本松美和子/1回） キャリアデザイン・キャリアプランについて理解する。 （10 本松美和子・① 高野政子・6 梅野貴恵・11 深野久美・21 栗林好子・④岩崎景子・23 吉田まつみ・24 原田千恵子・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ/7回）（共同） 看護職に対する社会的評価など、看護職の現状について探求し、グループでその内容について討議し考えをまとめる。さらに看護職のキャリアについて全体討議したうえでキャリアを積んだゲストスピーカーの話を聞き自己のキャリアについて考えを整理する。自己分析と自己理解を行ってうえで社会人基礎力診断によって自己の社会人基礎力を評価し課題を明らかにする。課題解決に向けた計画を立てる。	共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア科目	コア1 学際科目	大学史と別府大学		(概要) 本講義は複数の講師によるオムニバス方式の講義である。大学とは何かを理解し、大学制度と別府大学の歴史を知ること、大学生として、また別府大学生としてのアイデンティティを持って、主体的に学生生活を送ることができるようになることが目標である。 (オムニバス方式/全8回) (28 友永植/1回) : 別府大学の原点 (31 飯坂晃治/1回) : ヨーロッパ大学史 (30 宮崎聖明/1回) : 中国大学史 (60 木村聡/2回) : 日本大学史、別府大学史 (29 針谷武志/1回) : 大学史と大学アーカイブズ (66 山本晴樹/1回) : 別府大学の系譜と前史 (65 八幡雅彦/1回) : 短大史	オムニバス方式 メディア
			地域と世界農業遺産		(概要) 本講義は、日本の第一次産業は高齢化や労働力の低下により多くの地域で衰退している。そのようななか2013年5月30日大分県の国東半島・宇佐地域がFAO（国際連合食糧農業機関）より世界農業遺産に認定された。この授業では、地域とは何か、世界農業遺産とは何か、について考えるものである。大分県の抱える地域や農業に関わる課題として、①農業の理解の促進、②食育の推進、③七島イや世界農業遺産の地域振興への活用について、歴史や経営、食や生物等の多角的な視点から学びながら互いに議論を行うアクティブラーニング型授業である。 (オムニバス方式/全15回) (62 齋藤圭/12回) オリエンテーション、世界農業遺産の概要、水稻栽培と田植え、九州・大分の農業概要、秋の農業イベントの紹介、高校生から見た大分の世界農業遺産、日本農業遺産、食育と実践的な地域での取り組み、別府大学生から見た世界農業遺産を実施。またシタケ栽培の歴史、大分の世界農業遺産、七島イの紹介および工芸品づくり体験の3回の授業は、それぞれに精通したゲストスピーカーを招いて授業を行う。 (32 大坪素秋/1回) 生物多様性 (61 赤松秀亮/1回) 歴史や景観の維持から見た地域とのかかわり (53 河合研一/1回) 地域経営の視点から農業を考える	オムニバス方式 講義22時間 演習8時間
			グローバルと文化		(概要) 本講義は、「グローバル」とは、グローバルとローカルを組み合わせた造語で、世界的な視野を持ちつつ地域性を重視する考え方を表している。文化の観点から見ると、地域の伝統や資源の価値を保ちながら、それらを世界的な視点で活用し発展させることが期待されている。この考え方により、地域文化が世界に広がり、多様性と共生が促進されるストーリーが展開される。 この授業は、本学教員やゲストスピーカーを招き別府をはじめ大分県内や九州・沖縄の文化、歴史、食、観光などを通して地域の基本知識を学習する。また、別府市内でのフィールドワークや学生発表を通して、地域への誇りや愛着を再認識し、地域アイデンティティを確立させることを目的とする。さらにそこから地域の活性化につながっていくことを期待する。 (オムニバス方式・共同（一部）/全15回) (42 上野淳也/1回) : 世界とつながった大航海時代 (63 小野貴史/1回) : 地域の観光資源 (31 飯坂晃治/1回) : 古代ローマの浴場文化 (44 阿部博光/1回) : 九州と世界の地熱文化 (56 南喜玄/1回) : 世界の経済と文化 (43 梅木美樹/1回) : 九州と世界の食文化 (57 金城國夫/1回) : 琉球の言語と文化 (42 上野淳也・63 小野貴史/8回) (共同) 別府に関連する分野1（別府温泉と地球科学入門）、別府に関連する分野2（別府のまちあるきと文化）、別府に関連する分野3（別府のジモ泉文化）、大分県内関連する分野1（大友氏が視る世界と文化）、大分県内関連する分野2（福澤諭吉の世界観）、フィールドワーク（別府八湯ウォーク・別府八湯温泉道）、学生発表	オムニバス方式 共同（一部） 講義26時間 演習4時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア科目	コア1 学際科目	キャリア教育Ⅰ		本講義は、学生が自身のキャリアを主体的に設計し、そのための具体的な行動計画を立てる力を育むことを目標とする。 授業形態は、E-Learningシステムを利用して、動画を視聴し、その内容を基にワークシートや小レポートなどの課題を提出するオンデマンド形式をとる。様々なワークシートに取り組むことを通じて、自身のキャリアデザインやキャリアプランを深めることができる。 キャンパスライフ全てがキャリア教育であるという観点から、理想の生き方やキャンパスライフをイメージするワーク、先輩の体験談を聞くセッション等を通じて、卒業後の進路に向けてどんな準備を進めるべきかが具体的にとなる。 序盤は、就職活動の実態、日本的雇用慣行、社会人基礎力などの知識について学び、中盤はワークシートを多用し、キャリアプラン、就職について自ら考える。終盤では、実践編として、先輩の体験談や事例を参考にして自身のキャリアプランを練り直す。	メディア
			災害支援と防災対策		本講義は、近い将来想定される南海トラフ巨大地震に備え、今後社会を支えていくことになる学生・若者が、在学中に災害支援やボランティア、防災について学ぶことは、地域の防災力向上につながるとともに、社会の一員として生きていくことを意識する機会になると考えられる。 そこで本講義では、別府市、大分県にどのような災害が想定されているのか、またどのような知識や技能を身につければ減災に繋がるのか、演習を交えながら修得する。 別府市役所、別府市消防本部、大分地方気象台、気候変動センター、理科スクールマイム等より、単元ごとにプロフェッショナルなゲストスピーカーを招き講義と演習を実施する。	講義12時間 演習18時間
			地域フィールドワーク演習		本演習は、地域のボランティア活動等の実践的活動の場に参加し、地域の環境特性や文化、人々の生活のありようや価値観、健康に対するニーズを理解する。さらに、個々のフィールドワークをもとに全体討議を行い、大分県内の地域特性や人々の暮らしの課題について現状を理解し共有することを目的とする。 この演習により学生は、地域住民と交流を図りながら人々の暮らしに接近し、看護の対象である生活者と生活の場の理解および看護の探求的な思考に繋がる。 (5 松永智子・2 廣田真里・3 藤内美保・① 高野政子・6 梅野貴恵・7 上野恭子・10 本松美和子・16 田中佳子・20 野津美香子・21 栗林好子・24 原田千恵子・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ・27 河野修) (共同)	共同
		コア2 人間と文化の探求	哲学		本講義は、哲学がどのような学問であるか理解するために、①哲学についての導入的な規定を学び、続いて、②哲学の誕生から始め、西洋哲学における主要な考えを学んでいく。自然哲学者、古代ギリシア、中世、近世、19世紀の哲学まで、西洋哲学の大きな潮流を概観することで思考の可能性を学ぶ。 哲学がどのような学問であり、どのような事柄を問題としているか理解し、説明できるようになることが第一の目標である。第二の目標は、直接には実用性が低いと考えられる、哲学という学問を学ぶことで、非実用的な思考の権利を確認し、考えることの自由さと楽しさを実感することである。 講義形式で行うが、随時、学生が各自考える時間を設けたり、質問に対し答える機会を設けたりする。	
			文学		本講義は、明治から昭和(戦後)期の日本文学作品を鑑賞する。太宰治や川端康成、与謝野晶子といった近現代の著名な文学者の本文に触れながら、作品の主題や作者が生きた時代社会との関わりなどを明らかにしていく。すでに読んだことのある作品でも、作者の経歴や文学作品が生まれた場、社会的背景を意識して読み解いていくと、新たな一面を見出すことができる。授業では毎回、近現代の文学史を構成してきた主要な作品を取り上げることで、日本近現代文学の基本的な流れも理解できるように留意したい。作品に描かれた人間の多彩な姿を通して、作品の世界観や表現の方法、特質などを理解し、「文学」の豊かさ感じ取る力を養うことを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア2	人間と文化の探求	心理学 I		本講義では、「こころと身体」をテーマとし、心のはたらきを支える脳神経系の機能・構造を概説した後、感覚・知覚、運動、記憶・学習、感情（情動）・ストレス、動機づけ、睡眠・意識といったテーマを取り上げ、心理学についての基礎的な学習を行う。また、精神疾患や高次脳機能障害の事例を紹介しながら身体と心のメカニズムについて紹介する。心の機能とそれを支える生物学的基盤に関する知見を深め、自らの経験や体験になぞらえながら「こころの働き」について理解する視点を持てるようになることを目標とする。授業は講義形式で行い、こころと身体の関係についての理解を深めるためにテーマに沿ったグループワークの機会を適宜設ける。	
			歴史学		本講義では、近現代の歴史について、日本史と世界史の両方の視点から学ぶ。具体的には、歴史を自分ごととして理解するために、グローバルな視点（世界史）やナショナルな視点（日本史）だけでなく、可能な限りローカルな視点（大分の歴史）をも取り入れながら、近現代の歴史を概観することを目的とする。またこの授業では、歴史を自分ごととして理解するためのさらなる視点として、ジェンダーにも注目する。「ジェンダー」とは文化的・社会的に作られた性別という概念であるが、本講義は「女らしさ」や「男らしさ」、あるいは「家族」のかたちや時代によって異なり、時代によって作られることに着目することで、ジェンダーに対する自分の意識に向き合うとともに、日常の生活と歴史の大きな動きをつなげて考えることをも目的としている。	
			生命倫理学		本講義は、総論として、まず、生命倫理学がどのような学問で、なぜ誕生したのかを学び、この学問の現代的意義を学ぶ。その後、生命の質（QOL）と生命の尊厳（SOL）、インフォームド・コンセントやバタナリズムについて学ぶ。各論として、人工妊娠中絶、生殖補助技術、遺伝子操作、脳死と臓器移植、安楽死について、それぞれについての基礎知識とその問題点について学ぶ。 生と死を巡る、生命倫理学の現代的な問題について、基礎的な知識と基本的な「考え方」を身につけることが第一の目標である。第二の目標は、科学的技術や医療技術が生み出した諸問題を通して、我々が生きる現代社会の「複雑性・解決困難性」を肌で感じることである。 講義形式で行うが、随時、学生が各自考える時間を設けたり、質問に対し答える機会を設けたりする。	
			スポーツと健康		個人及び社会における生活習慣病や健康問題を認識するとともに、生涯にわたって運動・スポーツ・健康づくりを親しむ為に必要な科学的知識を学習する。生涯スポーツ（スポーツの生活化）の必要性と具体的方策などについても理論的に学習し、今後の生活や看護を行う上で患者さんに対して活かせるように学習する。また、レクリエーション学習や実技を行う事により学生同士のコミュニケーション能力を高め、協力・協調性を目的とした実践を行う。さらに自分の今後の健康についての考え方を構築させる。	講義20時間 実技10時間
		コア3 現代社会の多面的理解	経済学		経済学は大別すると、ミクロ経済学とマクロ経済学の2つに分けられる。 本講義では、国民経済全体の経済活動を分析対象とするマクロ経済学に関わる事柄を中心に学習する。例えば、国内総生産(GDP)や国民所得、インフレ率、失業率などの集計化された経済変量の相互依存関係について分析を行う。そのために、まず、マクロ経済学で使われる基本的な用語とそれらの概念の理解、次に、家計・企業等の民間部門と政府部門の活動や役割を通じて、国民所得がどのようなメカニズムで決定されるのかを理解し、金融政策や財政政策といった政府部門の活動が経済全体に与える影響について学習する。最後に、海外部門や外国為替制度を考慮した開放経済体系における財政・金融政策の効果について学習する。 このような学びを通じて、新聞やテレビのニュースなどで報道される現実の経済現象について自分なりに興味や関心を持ち、経済について基本的な見方や考え方ができ、現実の経済の動きについて、定性的に考察できるようになることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア科目	コア3 現代社会の多面的理解	地域福祉論		本講義は、地域福祉の理念とその歴史的変遷、日本社会における地域住民の生活問題を予防・解決の取り組みや今後の課題など、地域福祉に関する基礎的知識を身につける。 疾病、障害、介護、貧困、失業、教育機会の喪失などの問題が生じると、人は安心して生活を営むことができない。これらの諸問題を地域住民自身が権利主体となって解決していき、誰もが安心して地域生活をおくれるようになる取組を地域福祉という。お金で福祉のサービスを買うのではなく、誰かから福祉を与えられるものでもなく、生活の当事者が福祉をつくるという考え方はどのようにして生まれ、具体的にどのような取り組みや課題が生まれてきているのかをみていながら、地域福祉の可能性を考える。	
			教育学		本講義は、看護師になる上で必要となる教育学の知識の獲得を目標とする。 看護師は患者に対して治療を行うときや、同じ医療チームの中での指導など、教育という営みが立ち現れる場面が多々ある。ここで用いる「教育」という言葉の意味とは、人をより望ましい状態へと導く行為のことである。 本授業では上記のように、看護師という職業と深いかわりのある教育という営みの本質を知るために、受講者は教育学を学ぶこととする。教育学の知識を獲得することを通して、より深い他者理解を行えるようになり、ひいてはより優れた看護の担い手となることを目指す。	
			国際関係論		本講義は、安全保障、地球環境、開発問題などを取り上げる。またその都度、講義のテーマに則した最新報道があれば、新聞記事などの紹介・解説も行う。特に、地球温暖化の影響で世界中の気候が異常な状態となり、多くの地域で洪水や干ばつ、海面上昇などが一段と深刻化している。地球温暖化は世界の貧困問題にもつながっており、ぜひ取り上げたいテーマである。また北朝鮮の問題を背景とした日本周辺の安全保障なども重要だと考える。この授業を通じて、国際社会で何が起きているのかについての確に把握できるような能力を身につけることを目的とする。	
			法律学		本講義は、民法や刑法、国際法、医事法の基本など法学の基本的分野について学習する。現代の社会生活における問題の数多くが、法律問題として捉えることができる。抽象的で難しい領域にも見える法について、法律学の原理・原則を理解できるようにする。また、新聞記事などを題材に、日常生活や、ニュースなどにあるような問題を、法的思考によって分析、理解する力を養う。そして具体的な問題解決の中での、法的思考能力を身につけられるようにする。	
			マスコミ論		本講義は、マスコミュニケーションとは不特定多数の人々にあらゆる情報を伝達することで、その方法が放送や通信、新聞雑誌などのマスメディアだが、現在はSNSなどインターネットを利用するものもマスメディアとして大きな影響を与えている。その意味では個人本人もマスメディアの当事者であることを自覚し、正確で相手を毀損しない情報発信をするべきである。 学生としてマスメディアにどう対応していけばよいのか、発信していけば良いのか、日常どう利用していけばいいのかを講義を通じて学ぶ。 具体的にはテレビや新聞マスメディアの内容の理解を資料説明や番組視聴を通じて広げ、受講者がこれまでに持っている知識をさらに深める。併せて、ことばや文章表現を理解する中で、レポート作成という実践を通してスキルを磨く。	
			人権教育論		本講義は、前半に人権の歴史的意味と平等思想について学ぶ。人権には、人だけが持つことができる、誰もが平等に与えられるという前提があるが、なぜそのような前提があるのかについて考える。後半は、人権教育の実例を踏まえて人権教育の内容・方法を検討する。言葉による啓発的な人権教育によりかえって善意の理解者を生み出す危険性について学び、後半は、能力主義に隠されている差別の問題について考える。以上をふまえ、人権や現代の人権問題についての理解を深め、あわせて人権教育の目的や方法について基礎的な知識を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	現代社会の多面的理解	ボランティア活動論		本講義は、私たちが自らの生活の質を高めるためには、社会と関わり自らの世界を広げることが大切である。 ボランティア活動の理論や多岐にわたる実践について学ぶとともに、自らボランティア活動へ参加したり、身近な事例を調べることで、より、自分自身の社会的有効性、自己の存在価値を発見することで、豊かな人生を目指すことを考えていく。	
		法学（日本国憲法）		本講義は、日本国憲法の原理および学説について学び、判例や社会問題について、憲法の観点から考察し、自分の意見を述べるができるようになることを目指す。本講義では、憲法の中でも、法の下での平等や、表現の自由といった自由権、また生存権を中心とした社会権など、特に人権分野を中心に学習する。また、憲法は、毎日のニュースとも深く関係があるものであり、その点についても解説をしていく。そして我々自身の問題として、憲法について考えていく。	
		論理学		論理は私たちのコミュニケーションにおいて、重要な役割を果たしているが、日本の中学・高校では、（その一部が数学で取り扱われるものの）主題的に取り扱われることは少ない。そこで、本講義では、通常の「論理学」の枠を越えて、より実際の場面で捉え、日常の中で活用できる論理の力を身につけるためのトレーニングを行う。具体的には、「接続関係」、「接続構造」、「議論の構造」、「論証の構造と評価」、「演繹と推測」、「価値評価」、「否定」、「条件構造」について、学んでいく。 学生が論理について注意深く意識的になり、論理的に「読み・書き・話し・聞く」ことができるようになること、あるいは少なくともその出発点としての土台を身につけることが目標である。 講義形式で行う。学生が各自授業中に、あるいは宿題として、教科書の例題、練習問題、課題問題を解き、それに説明を加えることで授業を進めていくトレーニング形式の授業である。	
	コア科目	生物学		（概要）生物学では、生物について基本的な細胞構造、細胞分裂、遺伝子、酵素、分化などについての知識を身に付ける。また、植物、動物、微生物の基礎的な知識およびこれらを用いたバイオテクノロジーについても学習する。さらに、これらの知識をもとに、発展的に現在社会の様々な生物学的な問題に関する事象も学習し、自分の考えを構築していく。なお、この講義は遠隔で行う。基本的には時間割に従い、その時間帯でリアルタイムで講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （37 陶山明子／6回） 授業概要、食と生物学（タンパク質）、工業・農業と生物学1（酵素のはたらき）、植物の環境応答、工業・農業と生物学2（遺伝子、植物へのバイオテクノロジーの応用）、生物学まとめ （34 仙波和代／5回） 生命とは何か、生物の分類とウイルス、細胞の構造、現代社会と生物学1（生物の進化とウイルス）、現代社会と生物学2（ウイルス・細菌の感染症） （38 藤原秀彦／4回） 微生物、現代社会と生物学3（バイオテクノロジーについて）、生物社会と環境1（環境との共存）・生物社会と環境2（発酵と微生物）	オムニバス方式 メディア
		数学基礎Ⅰ		近年注目を集めているデータサイエンスやAIに関する技術の多くは、線形代数や微分積分といった数学を基礎として成り立っている。そのため、データサイエンスにおける様々な分析手法について理解・活用するためには、線形代数や微分積分についての知識が必要となる。そこで、この講義では、まず、高次元のデータを扱う道具として重要なベクトルや行列式の基礎を理解する。続いて、基本的な関数である多項式関数と、自然界の法則などに頻繁に現れる指数関数及び対数関数についての基礎を理解する。さらに、関数の増え方や減り方を調べる微分と、関数の値を積み重ねる計算である積分の基礎を理解することにより、データサイエンス関連の学修に必要な数学の基礎を習得する。なお、授業は全時間遠隔（オンデマンド形式）で行う。	メディア

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア科目	コア4 科学と情報	アルゴリズムとプログラミング		コンピュータプログラムは、問題を解くための具体的な処理を定式化したアルゴリズムと、その処理に必要なデータを管理するデータ構造から構成される。本講義は、コンピュータプログラムの基本構成要素であるアルゴリズムとデータ構造に焦点を当て、プログラムの効果的な構築に不可欠なこれらの要素を、Python言語を用いて具体的に学ぶ。授業では、プログラミングの基礎から始め、アルゴリズム設計の原理、データ構造の役割、制御構造の理解を深める。また、様々なアルゴリズムとデータ構造の基本的な考え方や実装方法、特に効率性の観点からの選択方法についても取り扱う。学生は、理論的な知識と実践的なスキルの両方を習得し、アルゴリズム的な考え方を現実世界の問題解決に適用する能力を養うことが期待される。	メディア
			統計学 I		今や統計学は文科系、理科系を問わず、多くの分野で必須の学問となっている。観測、調査、実験などのさまざまな方法で大量のデータが得られるが、これらをどのように整理し、まとめれば、データの持つ情報、傾向、特徴を分かりやすく把握できるだろうか。この問題に対してひとつの方法論を与えるのが統計学である。本講義は、データを縮約する方法(記述統計)及び、観察された一部のデータからその背後にある全体像の特性を帰納的に推論するための方法(推測統計)について、基本的な事柄を学習する。 このような学びを通じて、調査、実験、観測などを通じて得られたデータを統計データとして適切に処理する基本的な方法論の修得。統計データの分析によって得られた結果を理解・解釈するために必要な知識を修得することを目的とする。	メディア
			数理・データサイエンス入門		近年、社会のICT化が急速に進み、それにより蓄積された膨大なデータの分析から見いだされる新たな知見や価値が注目されている。この講義では、データサイエンスの基本的な考え方、統計学の基礎、主な分析手法、さまざまな分野における応用例を学び、現代社会におけるデータサイエンスの役割を理解する。データ処理の理解を深めるため、生成AIの活用方法やプログラミング言語pythonの基本を学び、実際のデータをさまざまな手法で分析したり可視化するなどの演習を行う。	メディア
			データサイエンス基礎		本講義は、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの役割を理解し、データ分析に必要となるデータ収集や分析設計の基礎を包括的にあつかう。データの重要性和その活用方法に焦点を当て、収集の技術、分析設計の原理、分析手法、可視化の技術を学ぶ。学生は、実際のデータセットを用いたケーススタディを通じて、仮説検証のための分析、判断支援、効果的な計画策定などデータ分析の実践的なスキルを習得し、ビジネスや研究におけるデータ分析の適用方法を学ぶ。データ分析については回帰分析を中心に、時系列データ解析やクラスター分析などの基本的な手法を扱う。また、データの解釈や倫理的な扱い方についても議論し、責任あるデータサイエンスのあり方を議論する。	メディア
			データエンジニアリング基礎		本講義は、ICTの進展に伴うビッグデータの重要性を探り、その収集・蓄積方法やクラウドサービスの利用、多様なビッグデータ活用事例を学ぶ。さらに、データの表現方法にも焦点を当て、コンピュータが扱う数値、文章、画像、音声、動画などのデータ形式、構造化データと非構造化データの違い等について学習し、ビッグデータを取り扱うための基礎を身につける。データ収集についてはIoT、エッジデバイスの利用のほか、Webスクレイピング、データベースの活用などの幅広い手法を扱い、それらの入手したデータから必要なデータを効率的に抽出・加工する方法を学ぶ。また、ビッグデータを取り扱う際には特に重要となるセキュリティについても触れ、セキュリティの3要素や暗号化・復号化についての基本を学習する。	メディア

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア4	科学と情報	A I 基礎		本講義は、AIの歴史、応用分野、社会的影響、機械学習と深層学習の基礎、生成AIの基礎、そしてAIの構築と運用について概観し応用分野を展望する。汎用AI、フレーム問題、人間の知的活動との関連性などの議論を踏まえ、さまざまな分野でのAI技術の活用動向や、そのAI技術の社会への普及に伴うAI倫理、プライバシー保護、AIの公平性と信頼性についても基本的な考えを学ぶ。そのうえで認識技術、予測技術、言語処理、身体運動やロボット分野におけるAI活用事例を通して課題へのアプローチ方法を学ぶ。	メディア
			情報リテラシー		本講義は、情報化社会で必要とされるネットワークや情報倫理の知識を学び、情報検索やソフトウェア操作の技術を身につけることで、情報処理の役割や可能性を理解し、大学生活や社会生活のさまざまな場面でコンピュータを活用できるようになることを目的とする。大学で必須となる論文や図書の情報検索を扱うほか、レポートや論文の執筆のためのワープロソフトの操作、データ整理のための表計算ソフトの操作、研究発表のためのプレゼンテーションソフトの操作、生成AIの活用方法などを扱い、大学での学修を進める上での必須技術を身につける。	メディア
		国際理解のための言語	医療英語コミュニケーション		本演習は、学生が将来外国人患者を看護するために役立つ英語を身につけることを目的としている。各授業では、学生同士の交流や看護現場でのコミュニケーションに役立つように、スピーキング、リスニング、ライティングの実践的なアクティビティを数多く行う。例えば、患者はどう感じているのか、どんな症状があるのか、病歴はどうなっているのかなどを尋ねる練習をする。また、英語の医療表現や語彙を学び、繰り返し練習することで、将来の国際的な医療現場でのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。学生にはすべての授業に積極的に参加することを期待している。	
	コア5	国際理解のための言語	英語 I (A)		入学前に外部オンラインテストCASECを受験してもらい、その点数に応じて、A (advanced)、M (intermediate)、B (Basic) の3段階にクラス分けを行う。Aクラスは最も上位のクラスにあたる。 この演習は、英語をコミュニケーションのツールとして使うことができるように、英語の基本文法を復習するとともに、語彙力や表現力を身に付けながら総合的な英語力を高めることを目的とする。重点は主に会話におかれるが、聴解、読解や作文も取り入れ、総合的な英語力を養成する。 前期の英語 I では、高校から大学への橋渡しとして、文法事項を復習しながら、英語がスムーズに発話できるようになるよう、ペアワークやグループワークで身近なトピックについて英語で話すとともに、グローバルな観点から、様々な課題に取り組む。	
			英語 I (M)		入学前に外部オンラインテストCASECを受験してもらい、その点数に応じて、A (advanced)、M (intermediate)、B (Basic) の3段階にクラス分けを行う。Mクラスは上位から2番目のクラスにあたる。 この演習は、文法を基礎とした練習を通して英語を正確に使えるようにするとともに、さまざまなトピックについてインタビュー形式のQ&Aを通して、自然で滑らかに英語を話す練習を行うことで、学生がより自信をもって英語をコミュニケーションのツールとして使用することができるようになることを目的とする。 英語 I では、計画的に学習できるようテキストを使ってリーディングやリスニングの演習を行うとともに、英語の正確さを高めるために、文法にもとづいた活動に重点を置く。	
			英語 I (B)		入学前に外部オンラインテストCASECを受験してもらい、その点数に応じて、A (advanced)、M (intermediate)、B (Basic) の3段階にクラス分けを行う。Bクラスは下位クラスとなる。 この演習は、基本的な文法、語彙、表現を学習しながら、英語を聞く練習や簡単な英文を作る練習を繰り返し行うことにより、身近な事柄について話せるよう、英語によるコミュニケーションの基礎を身に着ける。 英語 I では、これまでに学習した文法の復習を通じて英語の文を正確に作ることができるように練習する。また、ペアワークやグループワーク形式で実際に会話をしてみることにより、英語をスムーズに発話できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目群	コア科目	国際理解のための言語	英語Ⅱ（A）		入学前に受験した外部オンラインテストCASECの点数に応じた英語Ⅰと同じクラス分けを踏襲する。A（advanced）、M（intermediate）、B（Basic）の3段階でAクラスは最も上位のクラスにあたる。 この演習は、英語をコミュニケーションのツールとして使うことができるように、英語の基本文法を復習するとともに、語彙力や表現力を身に付けながら総合的な英語力を高めることを目的とする。重点は主に会話におかれるが、聴解、読解や作文も取り入れ、総合的な英語力を養成する。 英語Ⅱでは、英語のスピーキングにさらに重点を置く。動画、音声、画像など利用できるテキストで、日常で実際に使われる英語に少しずつ慣れながら、引き続き、英語が口から自然に出てくるように、ペアワークやグループワークで集中的に英語を話す練習を行う。	
			英語Ⅱ（M）		入学前に受験した外部オンラインテストCASECの点数に応じた英語Ⅰと同じクラス分けを踏襲する。A（advanced）、M（intermediate）、B（Basic）の3段階でMクラスは上位から2番目のクラスにあたる。 この演習は、文法を基礎とした練習を通して英語を正確に使えるようにするとともに、さまざまなトピックについてインタビュー形式のQ&Aを通して、自然で滑らかに英語を話す練習を行うことで、学生がより自信をもって英語をコミュニケーションのツールとして使用することができるようになることを目的とする。 英語Ⅱでは、英語Ⅰに引き続き、文法復習のドリルを毎回行い、正確に英語を作文できるようにする。また、英語を話すことにより慣れるよう、スピーキングに重点を置く。	
			英語Ⅱ（B）		入学前に受験した外部オンラインテストCASECの点数に応じた英語Ⅰと同じクラス分けを踏襲する。A（advanced）、M（intermediate）、B（Basic）の3段階で、Bクラスは下位クラスにあたる。 この演習は、基本的な文法、語彙、表現を学習しながら、英語を聞く練習や簡単な英文を作る練習を繰り返し行うことにより、身近な事柄について話せるよう、英語によるコミュニケーションの基礎を身に着ける。 英語Ⅱでは、英語Ⅰに引き続き、基本的な英文法項目の再確認をしながら、英語を聞く練習や簡単な英文を作る練習を繰り返し行うことにより基礎を身に着けるとともに、英語をコミュニケーションツールとして使えるよう、ペアワークやグループワーク形式での会話練習により重点を置く。	
			中国語基礎Ⅰ		国際社会に対応するためにはコミュニケーションの手段としての語学が必要になってくる。この講義は中国語入門の授業であり、初めて中国語を学習する学生を対象とする。「中国語基礎Ⅰ」では、中国語入門学習には難関となる「声調」をマスターし、正しい中国語の発音ができることを目指す。発音の学習以外、簡単な語彙や文法表現を身につける。	
			中国語基礎Ⅱ		外国語を学ぶのは、聞くこと、書くこと、話すことである。「中国語基礎Ⅱ」の講義は、「中国語基礎Ⅰ」を学習した上で、さらに難しい語彙、文法を学び、一定程度の語彙及び文法をマスターした上で、会話の練習を行う。中国語による挨拶、自己紹介、買物などの場面を設定し、会話を学ぶ。この授業では中国語での簡単な単語とフレーズを理解し、使用することで具体的なコミュニケーションを行うことを目指す。	
			韓国語基礎Ⅰ		韓国語学習の基本である母音、子音、パッチム、発音変化などの語彙、発音を繰り返して復習・予習・練習しながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基礎能力をバランスよく身につけるとともに、韓国の文化や慣習にも触れながら韓国という国への関心度・理解度を深めることを目的とする。言葉と関連して、韓国の政治・経済・社会・歴史・文化・生活習慣についても紹介しながら授業を進めていく。また、授業内容は初級の水準である。	
			韓国語基礎Ⅱ		韓国語基礎Ⅰで修得した基礎学習能力を中心に文法、基礎会話を繰り返して復習・予習・練習しながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の能力のさらなる向上を図り、韓国語能力試験（TOPIK）の基礎レベルに相当する韓国語能力を身につけるとともに、「韓国語基礎Ⅰ」に続き、韓国の文化や慣習にも触れながら韓国という国への関心度・理解度をさらに深めることを目的とする。基礎会話と関連して、韓国の政治・経済・社会・歴史・文化・生活習慣についてさらに詳しく紹介しながら授業を進めていく。また、授業内容は初級と中級の間の水準である。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門基礎分野	生物学的人間理解	生命科学	○	すべての生物は細胞から構成されている。人体の形態や構造、その役割や機能について理解するためには、その組織をかたちづくる細胞がいかにして恒常性を維持し、どのように機能しているのか理解する必要がある。本講義では、解剖生理学や病理学、薬理学などを学ぶ上で必要となる細胞生物学および分子生物学の基本を学ぶ。細胞の構造や機能、遺伝子からどのようにしてタンパク質がつくられ、どのように機能することで生体を維持するのか、細胞はどのように分裂してからだを構築し、次世代を生み出すのか、などについて系統的に学ぶ。学生は細胞と組織・器官・器官系統の成り立ちと機能について説明することができる。	
			生体機能の調節Ⅰ	○	看護においては、対象者の健康状態と疾患の程度を正確に把握し、それに応じた看護活動を医療チームの一員として行わなければならない。そのためには、人体の正常な構造と機能を正しく理解し、医療用語を用いて他の医療従事者と円滑なコミュニケーションを図ることが求められる。この講義では、人体を構成する最小単位である細胞の構造や増殖のしくみを学んだ後、人体を構成する各器官の構造と機能を順次学ぶ。はじめに、生命を維持するための栄養の消化・吸収を司る消化器系器官の構造と機能について学ぶ。次に、酸素を全身の細胞に運搬する過程に関わる器官、すなわち呼吸器および循環器の構造と機能、そして血液について学ぶ。学生は、消化器、呼吸器、血液・循環器機能の恒常性維持について説明することができる。	
			生体機能の調節Ⅱ	○	看護においては、対象者の健康状態と疾患の程度を正確に把握し、それに応じた看護活動を医療チームの一員として行わなければならない。そのためには、人体の正常な構造と機能を理解し、医療用語を用いて他の医療従事者と円滑なコミュニケーションを図ることが求められる。この講義では、身体の支持と運動として骨格と筋、関節、運動と代謝について理解する。また、情報受容と処理として神経系の構造と機能、脊髄と脳の構造と機能、神経の支配域と伝達路感覚器機能を学ぶ。さらに、身体機能の防御と適応のしくみとして感覚器機能、脳の統合機能、自律神経による調節、内分泌系による調節、内分泌腺と内分泌細胞、ホルモン分泌の調整を学び、運動の生理学的影響と代謝プロセスの関連性、健康への影響を理解する。学生は、感覚器・神経・運動器系機能の恒常性維持について説明することができる。	
			生体機能の調節Ⅲ	○	看護においては、対象者の健康状態と疾患の程度を正確に把握し、それに応じた看護活動を医療チームの一員として行わなければならない。そのためには、人体の正常な構造と機能を正しく理解し、医療用語を用いて他の医療従事者と円滑なコミュニケーションを図ることが求められる。この講義では、ヒトが外部からの情報をどのようにして受容し、処理しているのか、感覚器・神経系の構造と機能を学ぶ。また、どのようにして感染から身を守っているのか、皮膚の構造と機能を理解し、免疫システムについて学ぶ。さらに、生殖器と受精、胎児の発生を理解し、人間の成長と発達の過程、加齢の影響、生物学的死に関する基本的事項を学ぶ。胎児期から老年期までの各段階での身体的・心理的变化、社会的側面も含めた発達を理解し、健康状態や疾患リスクの変化を基に、看護ケアとの関連性を学ぶ。学生は、体内・外の情報伝達と調節機構、免疫システム、成長・発達について説明することができる。	
			生体機能シミュレーション演習	○	本演習は、生体機能の調節Ⅰ、生体機能の調節Ⅱ、生体機能の調節Ⅲで学習した身体の基本的な構造と機能の知識を活用し、身体機能が変化した場合、看護の視点から生体機能の調節について理解する。シミュレーションにより身体機能の変化を理解するために全身を観察する。さらに、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、看護の対象である生活者としての身体機能の理解を強化し、臨床現場で必要な判断力と基本的スキルの修得に繋げる。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門基礎分野	疾病と回復過程の理解	病態・治療論		(概要) 本講義では、疾患や病態に関するメカニズムや適切な治療について理解することを目的とする。疾病のメカニズム、疾病や障害の原因、症状、合併症、治療について学習する。特に、メカニズム・症状については、生物学的人間理解の内容と関連させ、治療や看護への根拠となることを理解する。治療については、異常な生理学的プロセス、細胞レベルでの臓器機能の変化等について学び、それに対する薬物・手術療法、症状に応じた対症療法、リハビリテーションなどについての概要を理解することができる。 (オムニバス方式/全8回) (75 矢野篤次郎/4回) 生命体の最小単位である細胞の異常から疾病の成り立ちを理解する。細胞障害、変性と細胞死、遺伝的多様性と疾病、炎症、腫瘍、感染等の理解を通して疾病に対する人間の反応を理解し、看護につなげることができる知識を身につけることができる。また、細胞の変性・細胞死を通して老化や死について考察することができる。 (76 児玉健介/4回) 病を得た人間の反応について理解する。健康障害や検査、治療に伴う人間の精神的反応を理解し、看護につなげることができる。また、主な精神疾患である、統合失調症、気分障害、自律神経失調症、神経症性障害、ストレス関連障害、摂食障害、睡眠障害、人格障害、様々な依存症等について、その症状とメカニズム、経過、治療、検査、処置について理解することができる。	オムニバス方式
			生命維持機能の障害と診断治療		(概要) 本講義では、生命維持の基本的な機能である呼吸・循環が障害された状態と、それに対する診断・治療について理解することを目的とする。生命維持機能の障害の原因やメカニズム、それによる身体への影響について学ぶとともに、生命維持機能の主な疾患として呼吸器疾患、循環器疾患等の病態を理解し、その症状や合併症、それらに対する適切な治療についても理解する。臨床的なアセスメント方法、検査等を通じて対象の状態を客観的に評価する方法を学び、看護援助の根拠となることを理解することができる。 (オムニバス方式/全15回) (77 上野拓也/5回) 呼吸器の構造と機能、主な症状と病態生理、主な疾患と症状、治療、検査、処置及び身体への影響について理解することができる。主な症状、疾患として、咳嗽、喀痰、呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性障害を来す肺疾患、肺循環障害、気胸、腫瘍等について理解することができる。 (78 藤本書生/5回) 循環器系の主な疾患や症状である心不全、虚血性心疾患、主な不整脈、主な弁膜症、心筋・心膜疾患、主な先天性心疾患、動・静脈疾患、血圧異常、ショック、チアノーゼ等を通して、循環器系の疾患のメカニズムを理解する。さらに主な治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。 (41 樋園和仁/5回) 血液・造血器系の主な疾患や症状である貧血、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患等を通して、血液・造血器系の疾患のメカニズムを理解する。さらに、主な治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門基礎分野	疾病と回復過程の理解	運動機能の障害と診断治療		(概要) 本講義では、運動器系の機能が障害された状態と、それに対する診断・治療について理解することを目的とする。運動器系の障害の原因やメカニズム、それによる身体への影響について学ぶとともに、運動器系の主な疾患の病態を理解し、その症状や合併症、治療について学習する。臨床的なアセスメント方法、検査等を通じて対象の状態を客観的に評価する方法を学び、看護援助の根拠となることを理解することができる。 (オムニバス方式/全15回) (79 杉修造/4回) 運動器系の骨、関節、骨髄疾患等を通して骨・間接系の疾患のメカニズムを理解する。症状、治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。 (84 後藤一也/2回) 末梢神経疾患、筋疾患・神経・筋接合部疾患及び小児神経系疾患の病態と症状のメカニズムを理解し、治療、検査、処置やそれらが身体に及ぼす影響について理解することができる。 (85 花岡拓哉/2回) 脳神経系の疾患、主な脳脊髄疾患の病態と主要な症状である頭痛、運動の異常（麻痺、失調）、言語障害のメカニズムを理解し、治療、検査、処置やそれらが身体に及ぼす影響について理解することができる。 (80 清崎邦洋/2回) 視覚障害に関する主な疾患を通して、視覚に関する感覚器のメカニズムを理解する。さらに主な症状、治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。 (81 安倍伸幸/2回) 聴覚・平衡感覚障害、嗅覚障害、味覚障害、咽喉頭疾患を通して、そのメカニズムを理解する。主な治療、処置、検査、身体への影響について理解することができる。 (82 甲斐宜貴/2回) 皮膚障害、皮膚腫瘍等に関するメカニズムを理解し、治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。 (83 小野敬一郎/1回) 歯、及び口腔内の疾患とそのメカニズムを理解し、治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。	オムニバス方式
			代謝機能の障害と診断治療		(概要) 本講義では、代謝機能が障害された状態と、それに対する診断・治療について理解することを目的とする。代謝機能の障害の原因やメカニズム、それによる身体への影響について学ぶとともに、代謝機能の主な疾患の病態を理解し、その症状や合併症、治療について学習する。臨床的なアセスメント方法、検査等を通じて対象の状態を客観的に評価する方法を学び、看護援助の根拠となることを理解することができる。 (オムニバス方式/全15回) (86 杉田真一/4回) 主な消化器疾患、腹痛、腹部膨満、イレウス、排便障害、下血、吐血、黄疸、主な肝臓・胆のう・膵臓疾患、腹膜、横隔膜の疾患、先天性消化器疾患等を通してメカニズムを理解し、それらの治療、検査、処置、身体への影響等について理解することができる。 (87 深田陽子/4回) 内分泌、代謝系の主な疾患である、甲状腺疾患、内分泌系の腫瘍、肥満症、糖尿病、脂質異常症、痛風等のメカニズムを理解し、それらの治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。 (88 鳥越雅隆/3回) 自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症等の疾患を通して免疫系疾患のメカニズムについて理解し、それらの治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。 (89 菊池秀年/4回) 慢性腎臓病、腎不全、浮腫、高血圧、等の腎疾患のメカニズムについて理解し、それらの治療、検査、処置、身体への影響について理解することができる。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門基礎分野	疾病と回復過程の理解	生殖機能の障害と診断治療		(概要) 本講義では、生殖機能が障害された状態と、それに対する診断・治療について理解することを目的とする。生殖機能の障害の原因やメカニズム、それによる身体への影響について学ぶとともに、生殖機能の主な疾患の病態を理解し、その症状や合併症、治療について学習する。臨床的なアセスメント方法、検査等を通じて対象の状態を客観的に評価する方法を学び、看護援助の根拠となることを理解することができる。 (オムニバス方式/全8回) (90 佐藤竜太/4回) 泌尿器の主な上部尿路系疾患、下部尿路系疾患、排尿障害、男性生殖器疾患、性感染症のメカニズムを理解し、症状と病態生理、検査、治療、処置および身体への影響について理解する。 (91 穴見愛/4回) 女性生殖器の疾患、性感染症、生殖機能障害、性分化疾患、等の症状、病態生理、診察、理学的検査、病理検査、画像検査、治療、処置、主な手術および身体への影響について理解する。	オムニバス方式
			薬理学		本講義では、薬物の作用機序、相互作用、副作用などに関する知識を理解し、薬物が身体に及ぼす影響や薬物の適切な使用方法を理解することを目的とする。薬物の分類、吸収、分布、代謝、排泄、薬物-受容体相互作用、薬物相互作用、副作用、耐性と依存、薬物の選択と投与などを理解する。学生は、薬物の安全で適切な使用方法を理解し、正確な薬物の選択、適切な使用量、薬物相互作用を理解したうえで、対象への与薬が適切であるかを自己の判断で思考する基盤を築くことができる。 (オムニバス方式/全8回) 薬理学総論、薬理学の基礎知識について理解する。(⑥ 藤本愛理/2回) 薬理学各論：抗感染症薬、抗がん剤、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物の作用機序、相互作用、副作用等の理解と、薬物が身体に及ぼす影響などについて学修する。(⑦ 平山愛理/3回) 薬理学各論：循環器系作用薬、呼吸器・消化器・生殖器の作用薬、物質代謝の作用薬、皮膚科・眼科作用薬、救急時使用薬、漢方薬等の作用機序、相互作用、副作用などの知識を理解し、薬物が身体に及ぼす影響等について学修する。(⑧ 関暁/3回)	オムニバス方式
			臨床薬理学		本講義では、薬物の臨床的な適用と効果を理解し、薬物の特性から対象の健康を支える効果的な支援方法を理解することを目的とする。特定の疾患に対する薬物の選択と調整を身体機能の特性をもとに理解し、薬物の効果を最大限に発揮するための支援方法を理解する。また、薬物投与方法の違いによる身体への影響についても理解する。学生は、対象の健康と安全を担保するための薬物治療の適切な管理及びチームでの連携の重要性について理解することができる。 (オムニバス方式/全8回) 薬物治療の基礎、薬物作用のメカニズム、薬物作用の動態の基本、薬物動態学理論の薬物投与計画、薬事行政と健康保険証制度を理解する。(⑨ 藤本愛理/2回) 対症療法薬の臨床薬理学：鎮痛薬、麻薬、感染症治療薬、循環器疾患治療薬、消化器疾患治療薬、呼吸器疾患治療薬等の臨床的適用と効果を理解し、薬物の特性から対象に効果的な支援方法を学修する。(⑩ 森島恵理佳/3回) 主要疾患の臨床薬理学：代謝・内分泌系疾患治療薬、腎・泌尿器系疾患治療薬、精神疾患治療薬、抗悪性腫瘍薬、免疫抑制薬等の臨床的な適用と効果を理解し、薬物の特性から、対象の効果的な支援方法を学修する。(⑪ 黒川真佑花/3回)	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門基礎分野	疾病と回復過程の理解	放射線療法と人間の反応		(概要) 本講義では、放射線の種類、照射技術、線量計画、副作用、治療効果の評価について理解することを目的とする。放射線が細胞に与える影響とがん細胞への選択的な作用について学習し、放射線治療を受けた対象の状態を評価し、放射線による侵襲と侵襲を軽減する方法を理解する。これらの知識が放射線治療を受けている対象とその家族のニーズに適切に応える看護援助の根拠となることを理解することができる。 (オムニバス方式/全8回) (95 岩槻憲俊/4回) 放射線医学の役割、X線診断の特徴と正常なX線像、代表疾患のX線像、CTの特徴と検査の実際、CT診断、MRIの特徴と検査の実際、MRI診断、超音波検査、核医学検査、血管造影の特徴、放射線治療の特徴と目的、照射法の種類、有害反応、放射線による障害と防護について理解することができる。 (96 木本理美/4回) 画像診断における看護師の役割として安全性の配慮、チーム医療の推進および放射線療法を受ける患者、家族の特徴、看護師の役割、放射線治療に伴う有害反応と看護について事例をもとに具体的に理解することができる。	オムニバス方式
			心理学的支援法		本講義では、対象の心理的ニーズを理解し、適切なコミュニケーションを通して健康とウェルビーイングをサポートするためのスキルを理解することを目的とする。対象自身が感情や認識について理解するためのコミュニケーションスキル、共感的な接し方、聴取スキルを身につけて対人関係を構築することを学ぶ。また、心理学支援法のアプローチの方法、認知行動療法、対話療法、リラクゼーション方法を学び、心理的な調整を促す手法を理解することができる。	
			リハビリテーションと人間の反応		(概要) 本講義では、疾患やけがの後遺症や合併症また加齢に伴う身体機能の変化に対して、機能や生活の質を維持・向上するアプローチを理解することを目的とする。個別の状況に合わせたリハビリテーションプランの立案、進捗モニタリング、機能評価方法を学習し、身体的な機能回復だけでなく、自己効力感の向上や心理的な適応力をサポートする方法について理解することができる。 (オムニバス方式/全8回) (92 竹下明伸/4回) リハビリテーションの定義、対象、制度、リハビリテーションの分野と疾患やけがの後遺症や合併症、加齢に伴う身体機能の変化に対する急性期、回復期、維持期、終末期等、経過別にみるリハビリテーションの特徴やアプローチ、リハビリテーションプランの立案、モニタリング、機能評価方法、心理的適応力をサポートする方法、多職種連携のあり方について理解することができる。 (93 大野実/2回) 作業療法としてのADL訓練、日常生活関連活動訓練、手工芸や遊び等の作業の内容を理解し、事例をもとに心身の機能や活動、社会参加に必要な能力の改善や適応能力改善の実際を理解することができる。 (94 川野知歩/2回) 音声機能、言語機能、聴覚に障害のある対象の機能の維持向上を図るための訓練や検査、助言や指導、また摂食・嚥下障害への対応について事例をもとに具体的に理解することができる。	オムニバス方式
			健康と栄養		疾病の治療や介助・支援を必要とする人々に最も身近で寄り添う看護職者が健康状態や治療経過に大きな影響を及ぼす栄養の知識を修得する意義は大きい。本講義では、栄養と健康の関係性、栄養状態の評価、健康を維持・回復するための方法を理解することを目的とする。栄養の基本原則、エネルギー摂取、それぞれの栄養素がもつ役割、疾患との関連性や予防医学の側面からの疾患管理について理解する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	公衆衛生看護学概論	○	本講義は、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法の特性について基本となる理論や概念を理解し、対象の理解について深く学ぶと共に、公衆衛生看護が対象とする健康課題や活動方法など基本的な考え方を理解する。公衆衛生看護の目的、社会的公正、ヘルスプロモーション、アドボカシー、対象者を生活者として捉えるという視点、環境と生活者の健康との関係、個人・家族・集団・地域との連動、対象者との協働、施策化の意義、グローバル社会における公衆衛生看護活動のあり方を学ぶ。学生は、保健師の定義と法的根拠、保健師の使命、保健師のコンピテンシー、保健師活動の変遷を理解することができる。	
			疫学		疫学は健康問題に対処するための重要なツールであり、看護の実践、特に保健師活動の実践に重要である。この講義では、疫学の基本的な概念と疾患の発生、拡散、予防に関する研究手法を理解することを目的としており、1. 疫学の概念と歴史 2. 疫学における疾病発生要因の考え方 3. 疫学調査について学習する。この学修により、傷病の分布状態や保健指標の分析による水準の把握などを行うことによって公衆衛生上の問題点を明らかにし、問題となる原因を探究し問題解決の方策を選択する力を身につけることができる。	
			A I ・データサイエンス実践		看護学の専門領域におけるデータサイエンスとAIの応用を中心に学ぶ。実社会とくに看護学に関連する実践的なデータ分析技術を事例など通して理解する。複数のAI技術の理論と実践を探究し、看護学においてこれらの技術がどのように利用されるかを分析する。本講義では、データサイエンス基礎、データエンジニアリング基礎、AI基礎の知識を前提に、看護学の実際の課題に対するプロジェクトベースの学習（PBL）を実施する。学生は具体的な看護学関連のケーススタディやプロジェクトに取り組み、データサイエンスとAIを活用して看護学の課題を解決するプロセスを体験する。この授業を通じて、学生は看護学におけるデータ駆動型の意思決定や戦略策定に必要な実践的な知識と技術を習得することができる。	メディア
			保健統計学		本講義は、保健統計学は健康関連データの収集、整理、分析方法を学び、統計的な手法を使って健康課題を理解することを目的とする。科学的な根拠に基づいた対策を立案するため、評価やエビデンスベースのアプローチとしてこの科目を学ぶ。保健統計学は、公衆衛生看護のみならず、看護学全般において、集団を対象とした保健統計学の重要性を理解し、疫学研究や臨床評価に必要なスキルを身に付け、専門職としての看護実践において信頼性のあるデータ解釈と意思決定能力を身につけることができる。	講義20時間 演習10時間
			保健医療福祉行政論	○	本講義は、保健医療福祉行政は時代の変遷に伴い変化・発展し、人々が健康で暮らしやすい地域づくりを目的とした公的な活動である。行政における仕組みや法律・制度・政策について理解を深め、地域保健福祉活動の具体策として、健康増進施策や介護予防施策、子育て支援施策などを取り上げながら、施策や保健計画の企画・立案・評価を学び、行政における看護職の役割について理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	基礎看護学	看護学概論	○	本講義は、「看護とは何か」「看護師は何をする人か」看護学の土台となる基本的内容を学ぶ事を目的とする。基本的には講義中心であるが、バスセッション等の討議形式で学習を深める。教養科目群の学習を基礎として、看護の歴史の変遷や哲学的背景から、看護学の基本概念となる「人間」「健康」「環境」「看護」について学ぶ。さらに看護実践を支える法的根拠、看護職の職業倫理、保健医療福祉システム等の学びを通して、看護専門職としての役割や責任を理解し倫理的な観点からケアを提供するための基盤を築くことができるようになる。	
			看護理論	○	(概要) 本講義では、看護の学問的発達の観点から、看護実践の基礎となる代表的な理論を取り上げ、その内容と特徴を学修し、看護理論を実践に応用することの意義を理解する。看護理論の分類、看護理論の変遷、看護理論家についての概要を学び、その中で看護の哲学として認知されているナイチンゲール「看護覚え書き」およびヘンダーソン「看護の基本となるもの」を取り上げ、具体的に看護実践への適応について理解する。この講義を通して学生は、理論と実践、そして研究のリンケージが看護学の更なる発展につながることを理解し、その一端を担う人材に成長することの意義を認識することができる。 (オムニバス形式/全8回) (1 村中陽子/4回) 看護理論の分類、看護理論の変遷、看護理論家についての概要を学び、その中で看護の哲学として認知されているナイチンゲール「看護覚え書き」およびヘンダーソン「看護の基本となるもの」を取り上げ、具体的に看護実践への適用について理解する。 (12 葛玉栄/4回) ヒルデガルドE.ペプロウ、シスター・カリスタ・ロイ、ドロセアE.オレム、ジョイス、トラベルビーの理論を取り上げ、その内容と特徴を学修し、各専門領域の実践に適用できるように理解する。	オムニバス方式
			看護過程論	○	本演習は、看護の対象を全人的に理解し、看護の視点において問題を特定でき、看護援助を計画・実施・評価するための思考過程を論理的に説明することができるために、アセスメント～評価に至る各段階に必要な知識とスキルを学修する。そのために紙上の対象を用いた事例演習（個人ワークとグループワーク）を通して、ヘンダーソン看護論を適用して看護過程の構成要素であるアセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価までの一連の過程を踏む。この演習を通して学生は、対象を全人的に把握するために必要なデータは何か、看護問題とは何かを理解し、計画立案・実施・評価に至る論理的一貫性と内容妥当性を説明する経験をする。ここでの学修内容は、あらゆる看護専門領域の基盤となる。 (1 村中陽子・④ 岩崎景子)	共同
			看護コミュニケーション論	○	(概要) 本講義では、看護職にとって重要なコミュニケーションスキルを修得することを目的とする。対象との効果的なコミュニケーションを通じて信頼関係を築くために必要な能力として、非言語的コミュニケーションの理解や質問テクニック、共感的な態度の示し方、コンフリクト解決の方法、情報伝達スキルなどを身につけることができる。 (オムニバス形式・共同（一部）/全8回) (1 村中陽子/3回) コミュニケーションの重要性と人間関係を形成するためのコミュニケーションについて学修する。自己のコミュニケーションを振り返り、より良いコミュニケーションの在り方を考察できるようになる。 (2 廣田真里/1回) 保健医療チームにおけるコミュニケーションについて学修する。 (27 河野修/1回) 人間関係成立に必要なコミュニケーション技法について学修する。 (27 河野修・2 廣田真里/3回) 事例を用いてシミュレーションを取り入れ実践的に学ぶことにより、多様な状況における対象との援助的人間関係を向上させる能力を修得する。	オムニバス方式 共同（一部） 講義：10時間 演習：5時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	基礎看護学	ヘルスアセスメント	○	本演習では、看護師として必要な身体観察の意義と方法を理解し、健康か否かを判断することを目的としている。対象の健康状態を評価するための病歴の収集、身体診査、精神的・社会的要因の評価など、包括的なアセスメント手法について理解する科目である。さらに、情報収集の重要性やデータの解釈方法についても学ぶ。学生同士でのシミュレーションを取り入れ、対象の健康状態を正確に評価し、結果を報告することによってヘルスアセスメント能力を身につけることができる。 (3 藤内美保・1 村中陽子・2 廣田真里・16 田中佳子) (共同)	共同
			基礎看護方法論Ⅰ	○	本演習では、看護師が行う看護行為で、看護の専門知識に基づいて、看護上の問題を解決するために、看護の対象となる人々の安全・安楽を保証しながら対象の自立を目指して、意図的に提供される技術を身につける科目である。主に看護の対象となる人々の日常生活上の支援の技術について学ぶ。講義時間を演習時間として有効に活用するため、当該時間の講義までにe-learningで学習し、さらに、事前に教師が録画した技術の目的・方法・根拠等についての映像を視聴して講義に参加する。講義では、4～5人のグループで課題のシナリオに沿って事前学習したことを参考に話し合い、発表を通して、対象の個性に応じた最適な援助方法を探求する姿勢を身につけることができる。 (2 廣田真里・3 藤内美保・16 田中佳子・④ 岩崎景子) (共同)	共同
			基礎看護方法論Ⅱ	○	本演習は、診療に伴う援助技術や、検査・処置等に伴う援助技術について学ぶ。e-learning教材や教師が録画した技術の目的・方法・根拠等についての映像を事前に学習したうえで演習に参加する。事前学習したことを参考に、4～5人グループでシナリオに沿って対象に応じた診療・検査・処置に伴う援助方法を検討し、安全・安楽、自立性、経済性において最適な援助方法を探究する。各グループで検討した援助方法を発表し、対象の個性に応じた最適な援助方法を探求する姿勢を身につけることができる。 (3 藤内美保・2 廣田真里・16 田中佳子・④ 岩崎景子) (共同)	共同
			基礎看護方法論Ⅲ	○	本演習では、様々な症状や経過に応じた看護援助方法について学ぶ。様々な疾患による症状や経過を理解し、患者の状態やニーズを的確に評価する方法を学ぶ。一般的な症状については、その症状の原因や機序について科学的に学習したうえで、エビデンスに基づいた看護援助の方法について学習する。いくつかの主な症状についてはシナリオを用いて、リアルな患者の状況を判断してエビデンスに基づいた看護援助を思考する姿勢を身につけることができる。 (3 藤内美保・16 田中佳子) (共同)	共同
			家族看護論	○	(概要) 本講義は、対象の健康維持及び回復過程における家族の役割と影響の重要性を理解することを目的とする。家族システム理論やモデル、家族の発達段階、コミュニケーションの重要性、家族のストレスと対処法、家族介入の方法を学び、家族との連携や家族への支援のあり方を学ぶ。さらに特定の疾患や状況において家族のサポートがどのように患者の結果に影響を与えるかをグループで検討する。学生は、家族のニーズを考慮した看護援助を探求する姿勢を身につけることができる。 (オムニバス/全8回) (4 鈴木智子/6回) 急性的な疾患や障害のある患者の家族支援・終末期を取り巻く家族支援、慢性疾患児や発達障害児における保護者支援について事例を用いて学修し、看護学理論を用いた介入方法について学修する。 (27 河野修/2回) 精神障害の子供、配偶者を持つ家族への支援、精神障害を抱える患者とその家族への支援について事例を基に具体的に学修する。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	○	本実習は、医療施設、高齢者福祉施設、児童福祉施設において、保健・医療・福祉の現場に参加体験することにより、看護職の役割について幅広く理解することを目的とする。実習目的・方法・評価について理解し、医療施設、高齢者福祉施設、児童福祉施設での実習を行い、さらに合同で学習内容の共有を行う。様々な場と人々との交流を通して、生活する人の思いを傾聴し、健康の側面から生活行動を支援することの意味を考え、看護の役割について考察する機会とする。さらに、今後の看護への動機づけを高めることができる。 (2 廣田真里・3 藤内美保・11 深野久美・16 田中佳子・21 栗林好子・④ 岩崎景子・⑤ 首藤八千子・22 吉村幸永・24 原田千恵子・25 野中智恵) (共同)	共同
			基礎看護学実習Ⅱ	○	本実習は、医療機関に入院している患者への日常生活の援助を通して、対象を全人的に理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力と看護職として必要な態度を修得する。実習方法は、一人の患者を受け持ち、アセスメントから評価に至る過程において対象との援助的人間関係を築くとともに、既習の知識や技術を用いて対象のもつ看護問題を特定し、その問題解決のための計画の立案、実施、評価を行う。さらに、カンファレンス等の実習グループメンバーとの協同学習の意義を理解して主体的な学習姿勢で討議を行うことにより、看護についての考えを深め看護観を育むことができる。 (3 藤内美保・2 廣田真里・16 田中佳子・④ 岩崎景子) (共同)	共同
		地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	○	本講義は、地域における暮らしや生活している対象と家族の特徴を理解し、多様な生活様式のなかで対象を支え、クオリティ・オブ・ライフの向上を図る看護の重要性を理解する。さらに、法制度や地域包括ケアシステムの概念と機能、多職種連携、協働、社会資源の活用を学び、地域・在宅看護の意義、目的、機能、役割を説明できるようになる。	
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	○	本演習は、地域・在宅看護学概論の知識を基に、地域・在宅看護における多様な対象個々のニーズを考慮した日常生活援助の方法を学ぶ。訪問時の健康確認、内服確認、日常生活行動に関する栄養支援、入浴援助、排泄援助、活動援助支援の方法や対象の価値観、プライバシーの尊重、コミュニケーションスキルの向上について理解し、信頼関係の構築について探求する。地域のネットワークを活かした緊急時の対応や状況に適した多職種連携の実践についても考察し、対象に適した援助方法を修得することができる。 (共同 (一部) /全15回) (10 本松美和子/10回) 地域・在宅で療養する慢性期、急性増悪期、回復期、終末期における看護及び日常生活援助として身体・生活状況の観察、栄養を支える援助、清潔を支える援助、清潔を支える援助、排泄を支える援助、活動を支える援助、災害時の対応についてアセスメント・援助方法と対象の生活を尊重した援助のあり方を学修する。 (10 本松美和子・4 鈴木智子・⑤ 首藤八千子/5回) (共同) 在宅における①身体状況の観察と評価、②栄養を支える援助の実際と評価、③清潔援助の実際と評価、④排泄援助の実際と評価、⑤移動援助の実際と評価についてシミュレーションを通して学修する。	共同 (一部)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	地域・在宅看護援助論Ⅱ		本演習では、地域・在宅における医療処置援助の重要性について学ぶ。対象の健康状態に合わせた医療処置の提供方法として、地域・在宅での感染予防や安全性を考慮した在宅輸液療法管理、腹膜透析管理、在宅酸素療法管理、人工呼吸器管理、褥瘡処置に関する知識と技術、在宅で療養するがん患者の疼痛コントロールに関する知識と技術を修得する。医療スタッフとの連携や家族指導の重要性を理解し、対象に最適なケアを提供する方法を考察することができる。 (共同 (一部) /全15回) (⑤ 首藤八千子/12回) ○ 地域・在宅で療養する対象の健康状態、生活状況に応じた治療処置の重要性と治療処置を行う必要のある療養者と家族を支える看護、アセスメント、医学的管理、トラブルへの対応を中心に学修する。 (10 本松美和子・4 鈴木智子・⑤ 首藤八千子/3回) (共同) 在宅における医療機器管理の実際、褥瘡ケアについてシミュレーションを通して学修する。	共同 (一部)
		地域・在宅看護シミュレーション演習		本演習は、地域で暮らす人々の日常生活援助や診療の援助において、対象の価値観や倫理的配慮、多職種連携について経験的に学ぶ。演習方法は、リアルな状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、対象に応じた安全で適切な援助を判断、実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めると共に地域・在宅でのケア状況を再現し、対象の反応や変化に対応する看護実践力を高めていくことができる。 (4 鈴木智子・10 本松美和子・⑤ 首藤八千子) (共同)	共同
		地域・在宅看護学実習Ⅰ		本実習は、地域で暮らす人々が自己の健康状態や生活の自立の状態に合わせて自分らしい生活を送るために、多職種と連携した看護支援の在り方を理解する。介護施設、地域包括支援センター、介護サービス等での実習を通して多職種連携や地域包括ケアシステムの活用の方法、看護職の役割を学ぶ。学生は生活者としての対象の価値観や個性性を尊重した支援の方法を探索する姿勢を身につけることができる。 (10 本松美和子・4 鈴木智子・20 野津美香子・⑤ 首藤八千子・23 吉田まつみ) (共同)	共同
		地域・在宅看護学実習Ⅱ		本実習は、在宅看護学に関する既習知識を活用し、健康障害を持ちながら地域で生活している対象と家族の健康の保持・増進、その人らしい生活を支える看護について学ぶ。また、多様な健康ニーズに応えるためのケアマネジメントや多職種連携の実際を理解する。具体的には、保健所等で行われている個人・集団を対象とした各事業を通して地域住民への健康の保持・増進、疾病予防活動の実際を学ぶ。また、在宅で生活するあらゆる健康レベルの人々や家族を通して、QOLの維持・向上、その人らしい暮らしを支える看護について学ぶ。学生は、対象を通して地域での生活を支える制度、多職種連携の実際、ケアマネジメントについて説明することができる。 (4 鈴木智子・8 赤星琴美・10 本松美和子・② 榮田絹代・③ 高本佳代子・⑤ 首藤八千子) (共同)	共同
		成人看護学	成人看護学概論		○ 本講義は、成人期の発達各期の生理的、心理的、社会的特性及び成人期の健康について理解し、成人期の健康を維持・促進することの意義や看護の特徴と役割について学ぶことを目的とする。さらに、急性期、回復期、慢性期、終末期の各健康レベルにおける看護の特徴について理解し、多職種との連携・協働における看護職の役割について学ぶ。また、成人保健の動向と成人に関する保健医療福祉制度について理解する。学生は成人を対象とする看護に関する基礎的な理論・知識を身につけることができる。

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	成人看護学	成人看護援助論Ⅰ	○	(概要) 本演習は、成人看護学概論の知識をもとに、危機的状況及び周手術期にある人とその家族を対象とした看護を学ぶ。急性期特有の状況下における身体侵襲を予測し、苦痛の緩和、合併症の予防、生体機能の回復、社会生活への適応に向けた看護援助について学修する。学生は、スピード感が求められる状況下での観察を通して、異常の早期発見、対象の状態把握、アセスメント、モニタリングなどのスキルを身につけることができる。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (12 葛玉栄/4回) 周術期の対象の理解、周術期の生体反応、術後合併症の理解と看護を学修する (葛玉栄/4回) ○ (19 青木奈緒子/6回) 呼吸機能障害・循環機能障害・脳神経障害のある患者が受ける手術療法と手術を受ける患者の看護過程について学修する。さらに、排泄機能障害・運動機能障害・生殖器に障害がある患者の周術期の看護について学修する (12 葛玉栄・11 深野久美・19 青木奈緒子・22 吉村幸永/5回) (共同) 事例を活用した周術期の看護過程の展開	オムニバス方式 共同 (一部)
			成人看護援助論Ⅱ	○	(概要) 本演習は、成人看護学概論の知識をもとに、容態が急性期から脱し、回復期から、長期的な治療が必要な慢性期にある対象とその家族への看護を学ぶ。慢性期特有の疾患や生活習慣病をもつ対象が、病状の維持・回復に向けて、セルフケア・セルフマネジメント力を高めることができるような看護支援について学修する。さらに、患者のモチベーション向上の支援や目標設定の手法・生活スタイルの改善に向けた指導や、適切なリソースの提供について学修する。学生は成人のニーズに応じた個別ケアプランの検討や評価、チームでの連携・協働とを重視した看護援助を探究する姿勢を身につけることができる。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (11 深野久美/2回) 慢性期にある対象の理解と家族の理解と支援の在り方を学修する。 ○ (12 葛玉栄/4回) 慢性病との共存を支える看護として肝硬変・糖尿病・ALSを持つ対象のアセスメント、看護、セルフマネジメントを支える看護について学修する。 (22 吉村幸永/4回) リウマチ・COPD・心不全・腎不全患者のアセスメントとそれに伴う看護について学修する (11 深野久美・12 葛玉栄・19 青木奈緒子・22 吉村幸永/5回) (共同) 事例を用いた看護の展開演習	オムニバス方式 共同 (一部)

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目 群	専門 分野	成人看護学	成人看護援助論Ⅲ	○	(概要) 本演習は、治療により病気の回復が期待できないと判断する健康状態にある対象のQOLを重視した看護について学修することを目的とする。終末期に近いときの病気の治療や延命治療の代替法に対し、適切な生命維持の治療に関する意思決定支援を学ぶ。さらに、治療に伴って身体的、精神的、社会的、又はスピリチュアルな続発症を長期に抱えている人の状況を理解し、その看護について、倫理的問題への対応をも含めて学修する。学生は終末期にある対象の全人的苦痛を理解し、その軽減と緩和ケア、臨死期のケア、患者家族へのケアのあり方について考察することができる。 (オムニバス方式・一部共同/全8回) (11 深野久美/2回) 治癒困難な疾患により看護が必要な対象の特徴と必要な援助について、苦痛のアセスメントと症状マネジメント緩和ケアを中心に学修する。 (12 葛玉栄/2回) 治療困難な疾患により看護が必要な対象への援助として緩和ケアについて学修する。 (22 吉村幸永/3回) 治癒困難な疾患の中で、白血病を取り上げ、アセスメントと看護の特徴を理解するとともに、化学療法・放射線療法等がん治療に伴う看護について学修する。 (11 深野久美・12 葛玉栄・19 青木奈緒子・22 吉村幸永/1回) (共同) 治癒困難な疾患により看護を必要とする対象について、住み慣れた地域での暮らしの支援について事例展開を通して必要な看護を考える。	オムニバス方式 共同 (一部)
			成人看護シミュレーション演習	○	本演習は、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識と技術を基に、成人期にある対象の特性を捉え、急性期看護に必要な実践力を身につけることを目的とする。演習方法は、リアルな危機的状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、対象に応じた安全で適切な援助を判断、実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。 (11 深野久美・12 葛玉栄・19 青木奈緒子・22 吉村幸永/15回) (共同)	共同
			成人看護学実習Ⅰ	○	本実習は、成人看護学に関する既習知識を活用し、生命の危機状態にあり、恒常性を維持するため緊急的な医療的介入を必要とする対象の健康状態の急激な変化に伴う看護を学ぶ。生命の危機状態にある対象の身体管理の実際、術後合併症予防や、合併症出現のリスクを予測した看護、疼痛管理、創傷管理について学ぶ。学生は生命の危機状態にある成人の健康状態の急激な変化からの回復と健康の促進に向けた看護のあり方を探求することができる。 (12 葛玉栄・19 青木奈緒子) (共同)	共同
			成人看護学実習Ⅱ	○	本実習は、成人看護学に関する既習知識を活用し、生涯にわたりセルフケアと生活の調整あるいは再構築を必要とする対象の疾患の進行や悪化を防ぐための看護について学ぶ。さらに、慢性疾患や障害を持ちながら生活していくための社会システムを理解し、対象のニーズに応じた社会資源の活用、関係職種との連携・協働について学ぶ。学生は、対象自身の意思決定を支援し、生活に折り合いをつけながらの不可逆的な病理的变化や障害のマネジメント、その人らしい生活を送るためのセルフケアの獲得、生活の再構築に関する支援の方法を身につけることができる。 (11 深野久美・22 吉村幸永) (共同)	共同

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目群	専門 分野	老年看護学	老年看護学概論	○	本講義は、高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的特徴や社会情勢の変化による高齢者の生活への変化を学び、高齢者の生活におけるQOLの向上、健康の維持・促進に係る看護の特徴と役割について学ぶことを目的とする。高齢社会の保健医療福祉制度や高齢者の権利、倫理的課題等の社会的課題を学習し、老年期のヘルスプロモーションからエンドオブライフケアまで多様な高齢者への看護の特性と多職種連携の必要性を理解する。学生は老年を対象とする看護に関する基礎的な理論・知識を身につけることができる	
			老年看護援助論	○	本演習は、老年看護学概論の知識を活用し、加齢や高齢者に特徴的な健康障害による生活への影響による諸課題と看護援助の方法を学習し、高齢者の生活援助に必要な知識と技術を修得することを目的とする。模擬事例を用いて高齢者の加齢の変化や特徴的な症状に伴う生活機能の評価をし、機能障害を抱えながらも生活の自立に向けた看護援助を考えるためのグループディスカッションや模擬体験を実施する。模擬事例を他者と検討することで高齢者のQOLを考えた看護ケアを追求する態度を身につけることができる。 (5 松永智子・20 野津美香子・23 吉田まつみ) (共同)	共同
			老年看護シミュレーション演習	○	本演習は、老年看護援助論で学習した知識と技術を基に、慢性疾患を持つ高齢者事例を通して、対象の特徴や生活への影響をアセスメントし、合併症や廃用症候群の予防、高齢者のもてる力が発揮できるような生活支援の方法を学ぶ。演習方法は、リアルな状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、高齢者である対象に応じた安全で適切な援助を判断、実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。 (5 松永智子・20 野津美香子・23 吉田まつみ) (共同)	共同
			老年看護学実習	○	本実習は、高齢者の特徴を理解し健康障害から出現する症状とともに対象の生活への影響、高齢者のもてる力を活かしたセルフケアと生活の調整あるいは再構築を必要とする生活の維持拡大に向けての援助について理解する。また、慢性疾患や障害を持ちながら生活していくための社会システムを理解し、対象のニーズに応じた社会資源の活用、関係職種との連携、チームで支援する看護の実践について学ぶ。学生は、入院患者の援助を通して、老年の残存機能の低下を防ぎ、発展させていく看護援助を探索する姿勢を身につけることができる。 (5 松永智子・20 野津美香子・23 吉田まつみ) (共同)	共同
	小児看護学		小児看護学概論	○	本講義は、子どもの成長・発達段階各期の生理的、心理的、社会的特性及び看護の特徴と役割について理解し、子どもとその家族を含めたコミュニケーションや成長発達に合わせたケアアプローチを学ぶ。さらに、子どもの権利や最善の利益について学び、小児保健の動向と子どもに関する保健医療福祉制度について理解する。学生は小児を対象とする看護に関する基礎的な理論・知識を身につけることができる	
			小児看護援助論	○	(概要) 本演習は、健康障害が小児や家族に及ぼす影響、小児とその家族への効果的な援助を学ぶ。成長段階や発達段階の理解を通じて、身体的・心理的・社会的側面からの日常生活の援助方法を探索する。学生は、小児期にみられる主要な症状に対する看護、治療、検査、処置を含む健康課題に対する援助を理解し、子どもの権利と家族の主体性を尊重したアプローチを考察することができる。 (① 高野政子・24 原田千恵子) (共同)	共同
			小児看護シミュレーション演習	○	(概要) 本演習は、小児看護援助論で学習した知識と技術を基に、子どもの発達段階や病状、日常生活の変化に応じた看護を実践するために、子どもへの接近法、プレバレーション、フィジカル・アセスメントの技術、観察結果の判断の仕方等について学ぶ。演習方法は、健康障害を持つ子どもと家族に関するリアルな状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、対象に応じた安全で適切な援助を判断・実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。 (① 高野政子・24 原田千恵子) (共同)	共同

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	小児看護学	小児看護学実習	○	本実習は、小児看護学に関する既習知識を活用し、健康な乳幼児を対象に、乳幼児期の成長・発達過程を理解し、病気や障害、事故を予防し、より健康的な生活を送れるような支援について学ぶ。また、健康障害により入院・外来治療を受ける小児及びその家族を対象に、成長・発達と健康障害に応じた看護、家族への支援について学ぶ。また、医療的ケア児のケア、家族支援についても学習する。学生は、入院している子どもの成長・発達と健康障害に応じた援助、子どもの権利擁護や小児と家族の尊厳を守る支援の方法を身につけることができる。 (① 高野政子・24 原田千恵子) (共同)	共同
			母性看護学概論	○	本講義は、母性の概念、リプロダクティブヘルスに関する概念を理解し、対象となる母性の身体的、精神的、社会的特徴および母子保健の動向と関連する法律、女性のライフステージ各期における看護の概念とリプロダクティブヘルスケアを考察する。事前課題を活かしたシンク・ペア・シェアやグループディスカッションをとおして母性看護学における概念の理解を深め、生命倫理や人権問題を身近な問題と認識し、医療職者として生命の尊厳と畏敬の念を醸成する。また、学生自身の生活を振り返り、自身も母性（父性）の対象者であることを認識し、性と生殖における将来のライフサイクルを設計する一助とする。学生は妊婦・産婦・褥婦を対象とする看護に関する基礎的な理論・知識を身につけることができる	
		母性看護学	母性看護援助論Ⅰ	○	本演習は、妊娠から分娩までの看護を学ぶ。妊娠期の生理学的変化や異常経過にある対象の妊娠中の健康管理、分娩期の生理学的変化と分娩時の看護ケアに関する基本的な知識を理解し、妊娠・分娩期の健康管理やリスク評価、異常分娩時の支援について考察することができる。 (6 梅野貴恵・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ) (共同)	共同
			母性看護援助論Ⅱ	○	本演習は、産褥期の母親と新生児への看護について学ぶ。褥婦の身体的・心理的变化、褥婦のアセスメントと回復への支援、授乳支援、心のサポート、夫またはパートナーや家族への支援など産褥期の看護を理解する。また、新生児の生理的特徴を理解し新生児ケアを習得する。母子を含む家族支援や他機関との連携についても考察し、母子の安全と健康を促進する援助を理解する。学生は、演習を通して、褥婦及び新生児ケアに必要な看護技術を身につけることができる。 (6 梅野貴恵・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ) (共同)	共同
			母性看護シミュレーション演習	○	本演習では、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱでの知識、技術をもとに、妊娠・分娩期のケア、産後のケア、新生児のケア、助産師との連携等、幅広い場面を再現し、分娩、産褥の状況に合わせた適切な援助及び新生児ケアについて修得することを目的とする。演習方法は、リアルな状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、対象に応じた安全で適切な援助を判断、実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。 (6 梅野貴恵・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ) (共同)	共同
			母性看護学実習	○	本実習は、母性看護学に関する既習知識を活用し、マタニティサイクルにある対象の看護と子育て支援について学ぶ。妊娠・分娩・産褥という生理的な現象のプロセスにおいて、母親及び胎児・新生児がより健康に過ごすことを支援し、女性が持っている力を十分に引き出してセルフケアを促進する看護を学ぶ。また、新しい家族関係移行に対し、母子の愛着形成の促進や育児技術獲得に向けた支援、心理社会的な適応を促す看護を理解する。子育て支援では、育児期にある母子及びその家族を対象とし、育児期にある家族の現状と具体的支援方法について理解し、産褥期以降の継続された母子と家族のケアについて学ぶ。学生は実習を通して、マタニティサイクルにある対象の看護と子育て支援の方法を身につけ、生命の尊厳についての認識や自己の看護観を深めることができる。 (6 梅野貴恵・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ) (共同)	共同

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	精神看護学	精神看護学概論	○	本講義は、人々の精神の健康と保持・増進および疾病予防を考える際の基盤となる科目である。心とその健康について理解するために精神力動理論や漸成的発達論、その他の既存の知識や理論を概説する。また、精神すなわち、自我機能の低下や精神疾患をもった人に対してセルフケア理論と対人関係論を基盤とした援助論を学ぶ。さらに精神障害者の人権問題について考える。精神医療の歴史を概観し、患者と家族の人権擁護について理解を深め、看護職としてふさわしい態度を培うための一助とする。 本科目を学修することは、精神看護とは何か、どのような役割と方法があるのかについて説明できるだけでなく、精神科領域とそれ以外の領域において対象者のメンタルヘルスの状態をアセスメントする際に役に立つ。そして、精神看護学援助論、精神看護シミュレーション演習、精神看護学実習の基礎となる。学生は精神障害者を対象とする看護に関する基礎的な理論・知識を身につけることができる	
			精神看護援助論	○	(概要) 本演習は、精神看護学概論の知識と医学モデルに準じた障害や疾患の理解を基に代表的な精神疾患患者の援助方法を学修する。精神障害者の急性期症状出現時から回復期と社会復帰、地域生活を辿り、それぞれの時期の主な援助の考え方と方法について学ぶ。さらに精神障害者の家族への支援、ライフサイクルに特徴的な障害患者に対する看護を学修する。学生は、今後の「精神看護シミュレーション演習」と「精神看護学実習」で学修する上で基盤的で具体的な知識となるだけでなく、身体疾患患者のメンタルヘルスを考える際の知識を身につけることができる。 (オムニバス方式/全15回) (7 上野恭子/3回) 精神看護の基本的技法の理解と精神障がい者の家族の問題と看護、リエゾン精神看護について学修し理解を深める。 (21 栗林好子/8回) ・精神症状の理解と看護精神科治療時の看護師の役割と援助各種精神療法地域生活を支える看護を学ぶ。さらに、気分[感情]障害・神経症性障害、ストレス関連障害と支援、ライフサイクルと精神の障害について学修する。 (27 河野修/4回) ・入院初期の精神的安定を促す看護・回復期・社会復帰を目指す患者の看護を学修するとともに、オレム - アンダーウツのセルフケア理論を活用した看護の考え方を学修する。さらに、精神作用物質使用による精神および行動の障害について学修する。	オムニバス方式
			精神看護シミュレーション演習	○	本演習は、「精神看護学概論」と「精神看護援助論」で培った専門知識を基に、精神看護に必要な実践力を身につけることを目的とする。演習では少人数のグループ編成とし、精神疾患患者の事例を用いて看護計画を立案、グループワークを実施し、プレゼンテーションで看護内容を共有する。さらに精神疾患患者の家族の問題や苦悩についてロールプレイをしながら模擬体験し、家族支援への視野を広げる。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。 (7 上野恭子・21 栗林好子・27 河野修) (共同)	共同
			精神看護学実習	○	本実習は、精神看護学に関する既習知識を活用し、精神に障害をもち、治療しながら生活している対象の特性を理解し、援助関係の構築と精神の健康障害に応じた看護を学ぶ。医療機関で治療を受けている対象の精神の健康問題と人間関係成立の過程に重点をおき、患者―看護師関係が治療の関係であることが看護する上で重要な意味を持つことを理解する。学生は、対象の精神機能の日常生活への影響を見極め、対象の健康的な意識や意欲に働きかけ、生活習慣や社会性の回復を図る援助を身につけることができる。 (7 上野恭子・21 栗林好子・27 河野修) (共同)	共同

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	国際看護学	国際看護活動論		(概要) 本講義は、国際的な医療支援や人道活動、開発援助における看護の役割、異なる文化や環境での看護実践の実際を学び、グローバルな視点で看護を考えることを目的とする。異なる社会状況や健康保険システムの理解を通じて、それぞれの地域のニーズに応じた看護を理解する。学生は、言語や文化の違いを越えた看護ケアの重要性、国際法、倫理、安全性なども理解し、国際看護活動の実践における法的・倫理的枠組みを考察することができる。 (オムニバス方式/全8回) (74 桑野紀子/4回) グローバルヘルスについて、開発途上国の健康課題について、開発途上国における国際看護展開、国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について学修する。 (24 原田千恵子/4回) 国際協力のしくみについて、異文化・多文化を考慮した看護について学修する。	オムニバス方式
			海外研修		海外研修では、本学と提携関係にある中国の大学において看護教育体験を通じて異文化理解と専門知識を深める。中国の看護教育制度やカリキュラムを学び、現地の看護学生や教員との交流を通じて相互理解を図る。中国の医療・看護実践の現状、文化的背景が看護ケアに与える影響を理解する。学生は、実際の講義や演習の見学を通じて、中国の看護実践と教育を体験し、異なる看護教育アプローチに触れながら、国際的な視野を養い、異なる文化背景での看護の役割について考えることができる。	
	看護の統合と発展		看護管理論		本講義は、看護管理の基本理論、モデル、組織の構造と機能、人材管理、予算編成、効果的なコミュニケーション、問題解決手法、リーダーシップ、チームワーク等について学ぶ。看護現場の課題に対処するための戦略やツールを理解し、組織全体の効率性と看護サービスの質を向上させる方法について理解し、倫理的な観点からの意思決定やコンプライアンスの重要性について学ぶ。学生は、看護管理者として必要なリーダーシップやチームを効果的に指導する能力、組織の一員としての責任や役割について理解することができる。	
			医療安全マネジメント論	○	本講義は、医療現場における医療過誤や医療事故の概念を理解し、医療安全のための予防・管理、医療事故の背景や原因について学ぶ。事例を用いて医療事故の分析、リスク評価、予防策について考察し、医療チームにおけるリスクコミュニケーションの回避方法、報告や情報共有の重要性、報告書の活用方法について理解する。学生は、法的・倫理的側面から医療リスクについて検討し、安全な医療環境の調整と実践力を築く力を身につけることができる。	講義：10時間 演習：5時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	看護の統合と発展	看護研究の基礎	○	(概要) 本講義は、「看護研究の実践」の基盤となる知識と技術を修得することを目的とする。学修内容は、看護研究とは、研究のプロセス、研究倫理、研究デザイン、研究計画書の書き方、実験研究の特徴と方法、量的研究の特徴と方法、質的研究の特徴と方法、混合研究法の特徴と方法、事例研究の特徴と方法、文献研究の特徴と方法、について基本的な知識を修得する。また、個人の関心に応じて、研究テーマの絞り込み、研究計画書の作成を個別に試作する。学生は、一連の学習を通して、後続の「看護研究の実践」へのレディネスを高めることができる。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (1 村中陽子/4回) 研究の意義と目的を理解したうえで、リサーチクエスションの立て方を学修し、量的研究の進め方・混合研究について学修する。 (12 葛玉栄/3回) 文献検討と文献の読み方及び、量的研究の方法について学修する。 (7 上野恭子/3回) 質的研究として、事例研究・質的記述的研究・グラウンテッドセオリアプローチについて学修する。 (1 村中陽子・7 上野恭子・12 葛玉栄/5回) (共同) 自己の関心に沿って研究計画書を、教員の指導を受けながら完成させる。	オムニバス方式 共同 (一部) 講義：20時間 演習：10時間
			看護研究の実践	○	本演習は、「看護研究の基礎」の知識や研究のためのスキルを実際に活用して、看護の問題解決と新たな看護の創造につなげていく能力や生涯自己研鑽し続ける能力を育成することを目的とする。研究の実践においては、学生、教員間で定期的に検討会を開き、文献検討、研究テーマの絞り込み、研究計画書の作成、研究の実施、論文作成、研究発表を行う。この演習を通して学生は、看護研究のプロセスを実際に踏み、看護研究の基本的態度とその方法を学修することで、自己の将来的なキャリア発達・看護の専門性について考察することができる。提出された論文を<卒業論文>として評価する。 (7 上野恭子・1 村中陽子・2 廣田真里・3 藤内美保・4 鈴木智子・5 松永智子・① 高野政子・6 梅野貴恵・8 赤星琴美・9 白石裕士・10 本松美和子・11 深野久美・12 葛玉栄・16 田中佳子・19 青木奈緒子・20 野津美香子・21 栗林好子・② 榮田絹代・③ 高本佳代子・④ 岩崎景子・⑤ 首藤八千子) (共同)	共同
			がん看護		本講義は、がん患者の全人的苦痛への緩和ケアに焦点を当て、様々な側面からがん患者及びその家族に対するケアと看護師の役割について理解することを目的とする。がんの病態生理、診断、集学的治療、がん患者と家族の身体的、心理的、社会的ニーズを理解し共感的コミュニケーションスキルを修得する。また、がん患者の症状マネジメント、栄養サポートにおける知識と援助方法を学ぶ。学生は、ACP、終末期ケア、看護倫理、サバイバーシップ、緩和ケアチームや在宅移行での多職種連携における看護師の役割を理解することができる。 (共同 (一部) /全8回) (23 吉田まつみ/5回) がん医療の現状とがん看護における看護師の役割、がん看護の対象者の特徴の理解と看護師の役割、がん患者の全人的苦痛の理解、がん治療における看護師の役割、について学修する。(吉田まつみ/5回) (11 深野久美・23 吉田まつみ/3回) (共同) がんサバイバーシップとソーシャルサポートの理解のためサバイバーの方の話を聞き、課題についてグループで検討・ディスカッションすることで学修を深める。	共同 (一部)

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	看護の統合と発展	クリティカルケア		(概要) 本講義は、生命の危機的状況にある急性・重症患者や家族の状況を理解し、全身管理や日常性への支援、エンド・オブ・ライフケアを包含し、常に生活者としての患者のQOLを軸においた看護を理解することを目的とする。看護師の臨床判断プロセス、呼吸器の管理、薬剤の投与などを実践的な事例を通して学修する。学生は、クリティカルケアで生じやすい倫理的課題と解決プロセス、家族ニーズの充足、専門看護師の役割について理解することができる。 (オムニバス方式/全15回) (99 大石一成/5回) 生命の危機的状態にある対象のICU等における全身管理について理解するとともに看護師による観察の重要性についても理解することができる。 (98 大矢健介/5回) ICU等における人工呼吸器試着中の対象の看護、薬剤管理及び看護師による臨床判断のプロセスについて理解することができる。 (100 石原タ子/5回) 生命の危機的状況にある対象の倫理的課題、家族ニーズの充足、エンドオブライフケア等について理解することができる。	オムニバス方式
			リエゾン精神看護		本講義は、精神看護の知識や技術を応用して、精神科だけでなく、一般診療における対象やその家族、さらには医療従事者の精神的ケアにあたる看護の役割を理解することを目的とする。心身相関の視点、精神看護に関連する理論、アセスメントを応用して、リエゾン精神看護の対象となる身体疾患を抱える患者の精神的諸問題を理解する。学生は、対象とその家族へのアプローチ、看護者のメンタルヘルスをサポートするための方法を探求することができる。	
			災害看護		(概要) 本講義は、急性期・亜急性期・慢性期・平穩期といった災害サイクル各期の特徴や、災害の医療機関への影響、地域住民の健康と暮らしへの影響と、災害サイクル各期における看護を理解することを目的とする。学生は、DMATや、DPATの活動を学習し、保健・医療チームの一員として活動できる素地を身につけることができる。 (オムニバス方式/全8回) (98 大矢健介/4回) 災害各期の特徴とケア、DMATの活動について理解することができる。 (97 宮崎良尚/4回) 災害各期における看護の役割とチーム医療について理解できる。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	看護の統合と発展	災害支援チーム医療論	○	本演習は、チーム医療の重要性とその実践に焦点を当てる。これまでの既習の知識を活用し、本学の食物栄養科学部、文学部人間関係学科の学生と協働して、共通する課題解決に向けてシミュレーションに取り組む。課題はいくつかの場面を取り上げ、異なる職種で組み合わせたチームにより、シミュレーションとデブリーフィング、フィードバックを繰り返し、チームで連携・協働することを体験的に学習する。学生は、課題解決のための計画立案、実施のプロセスを通して、多職種の役割理解と課題分析と支援計画、コミュニケーション力を修得することができる。 (共同/全8回) (2 廣田真里・48 矢島潤平・49 津田克彦・59 日和恭世・16 田中佳子・20 野津美香子・21 栗林好子・④岩崎景子・⑤ 首藤八千子・23 吉田まつみ・24 原田千恵子・25 野中智恵・27 河野修/5回) (共同) 保健医療福祉に関わる専門職の役割と災害時のそれぞれの役割、災害時期による支援計画・具体的場面の介入計画立案、グループ毎のシミュレーション、振り返りと考察 (2 廣田真里・16 田中佳子・19 青木奈緒子・20 野津美香子・④岩崎景子・⑤ 首藤八千子・23 吉田まつみ・24 原田千恵子・26 渡邊めぐみ・27 河野修/1回) (共同) 災害時の救命活動BLSの実践 (2 廣田真里・48 矢島潤平・49 津田克彦・59 日和恭世/2回) (共同) チームとして協働するためのコミュニケーション方法としてのチームステップス、災害場面における支援対象の状況把握と分析・問題の把握	共同
			看護統合シミュレーション演習	○	本演習は、看護マネジメント実習の基盤となる。複数の対象を受け持ち、個々の対象の状態、状況をアセスメントし、タイムプレッシャーや作業の中断があるなかで優先度を判断しながら看護ケアを実施する看護マネジメントについて理解を深める。演習方法は、リアルな状況設定とシナリオを用いて、事前討議、シミュレーション、フィードバック、ディスカッションを繰り返し、対象に応じた安全で適切な援助を判断、実施する。この一連の過程を通して、学生は状況判断力、コミュニケーション力と実践力を身につけ、臨地実習のレディネスを高めることができる。 (10 本松美和子・16 田中佳子・19 青木奈緒子・20 野津美香子・21 栗林好子・④ 岩崎景子・⑤ 首藤八千子・22 吉村幸永・23 吉田まつみ・24 原田千恵子・26 渡邊めぐみ) (共同)	共同
			看護マネジメント実習	○	本実習は、複数の対象を受け持ち、個々の対象の状態、状況をアセスメントし、優先度を判断しながら看護ケアを展開する看護マネジメントについて理解する。また、協働するチームの一員としての看護師の役割や多職種との連携の実際、看護管理者が行う病棟管理の実際について理解する。さらに夜間帯の看護実践や各勤務帯の引き継ぎ等、24時間の切れ間ない継続看護の実際について理解する。学生は、これらの学習成果を統合、活用し組織の一員としての看護マネジメントの方法を身につけることができる。 (3 藤内美保・4 鈴木智子・5 松永智子・① 高野政子・6 梅野貴恵・7 上野恭子・10 本松美和子・11 深野久美・12 葛玉栄・16 田中佳子・19 青木奈緒子・20 野津美香子・21 栗林好子・④ 岩崎景子・⑤ 首藤八千子・22 吉村幸永・23 吉田まつみ・24 原田千恵子・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ・27 河野修) (共同)	共同

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	看護の統合と発展	総合看護実習	○	本実習は、これまで学修してきたすべての看護学実習を基盤とし、個々の学生が学んだ知識・技術・態度を統合して導き出した課題を明確にし、課題解決に取り組む実習であり、看護専門職としてのレディネスを高めることを目標とする。 この実習では、学生の目標に沿った実習施設で、学生は看護専門職としての能力を自己評価し、さらに深めたい学習課題を明確にして、主体的・自律的に、個別の実習の計画・実施・評価を行う。 この実習を通して学生は、将来のキャリアを見据え、看護専門職としての自己の看護観が明確になり、看護専門職としての役割、責務、態度、自律性について自己の成長をふまえて考察することができる。 (6 梅野貴恵・3 藤内美保・4 鈴木智子・5 松永智子・① 高野政子・7 上野恭子・10 本松美和子・11 深野久美・16 田中佳子・19 青木奈緒子・20 野津美香子・21 栗林好子・④ 岩崎景子・⑤ 首藤八千子・22 吉村幸永・23 吉田まつみ・24 原田千恵子・25 野中智恵・26 渡邊めぐみ・27 河野修) (共同)	共同
		公衆衛生看護学	保健医療福祉行政活動論	○	本演習は、保健医療福祉行政の仕組み、公共政策の理念と政策体系、国の政策動向と自治体の保健福祉政策の関連、地域の健康課題を基にした政策過程と評価、施策化・事業化の意義と保健師の役割について理解する。多様な専門職や地域住民と協働し、地域の健康水準を高めるための事業化、施策化、社会資源の開発、システム化を実践していく必要性を理解する。具体的には、地域の健康課題から健康課題解決の施策、事業化の必要性を検討し、保健医療福祉の計画策定と、計画に盛りこまれた施策を事業化するための企画、立案、予算の確保、保健活動の実施体制の整備の実際について学ぶ。学生は、企画書の作成や政策提言のプレゼンテーションを通して、保健福祉行政活動に関する知識と技術を身につけることができる。	
			公衆衛生看護支援論Ⅰ	○	本演習は、地域で生活する個人・家族、集団を対象とした保健師がおこなう支援の基本的な考え方を理解し、保健師が直接に働きかけて提供する対人援助技術について学ぶ。地域の人々や関係者・関係機関と協働して、健康課題を解決・改善するために必要な理論・方法・技術について理解する。 健康と生活上の課題解決方法に関する理論を用いて、相談援助技術である家庭訪問、健康相談の目的、特徴、展開方法について理解し、効果的な支援技術を習得する。また、集団への健康相談・健康教育に関連した理論を理解し、先駆的な取り組み事例を通して効果的な援助技術を学ぶ。学生は、事例に対して理論に基づいた健康教育の技術および保健師活動の展開方法（健康教育企画案と健康教育指導案の作成、媒体の作成、ロールプレイの実施、評価）を習得することができる。 (共同 (一部) /全15回) (② 榮田絹代/8回) 公衆衛生看護活動のコアとなる支援技術の特性理解及び、支援技術として、家庭訪問、健康診査・健康相談・保健指導時の支援技術について理解し実践する。 (② 榮田絹代・8 赤星琴美・③ 高本佳代子/7回) (共同) 公衆衛生看護活動のコアとなる支援技術の特性理解及び、家庭訪問、健康診査・健康相談・保健指導時の支援技術を用いて、シミュレーションとデブリーフィングで実践に活用できるようになる。	共同 (一部)

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目 目 群	専門 分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護支援論Ⅱ	○	本演習は、健康に関連する身体的、心理社会的リスクを抱える個人・家族の特徴とリスク低下のための支援の必要性、ハイリスク事例への支援方法、保健師の役割ならびに他機関・他職種との協働・連携についてを理解する。学生は、ハイリスクの状態のアセスメントや、リスク低下のための支援が必要な対象者の抽出、支援に必要な知識・態度、予防的アプローチを行うための面接技術、アウトリーチ型の支援の手法を習得することができる。 (共同 (一部) /15回) (② 榮田絹代/8回) 健康行動理論を活用した支援技術を学修し、健康診査・保健指導・健康相談の目的・対象・方法を理解して活用できるよう学修を深める。さらに健康教育について指導案作成を学び、発表する。実施したシミュレーションや指導案の発表を振り返り、指導技術の向上を図る。 (② 榮田絹代・8 赤星琴美・③ 高本佳代子/7回) (共同) 健康診査・保健指導・健康相談において特定保健指導場面の事例を用いてシミュレーションする。また、健康教育について指導案を個人・グループで作成し、発表する。	共同 (一部)
			公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	○	本講義は、疾病や傷害の有無に関わらず、地域に生活する「各ライフステージの人々」、「あらゆる健康レベルの人々」を対象に、個人・家族・対象者が属する生活集団全体を視野に入れ、健康障害の発生を未然に防ぐことを重視した公衆衛生看護活動の考え方と活動方法を理解する。母子、成人、高齢者における健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度の歴史的変遷、社会資源と関連させながら理解し、健康への支援を行う公衆衛生看護活動を学ぶ。保健活動において基本となる個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得することができる。また、公衆衛生看護活動における地区・組織活動の意義を理解し、グループ・地域組織の育成から地域活動への発展に向けた支援および協働活動の特徴と方法を理解することができる。 (共同 (一部) /全15回) (8 赤星琴美/12回) 母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、システムを構築・管理する公衆衛生看護活動について、健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度の歴史的変遷、社会資源と関連させながら理解する。個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得する。 (8 赤星琴美・② 榮田絹代・③ 高本佳代子/3回) (共同) 母子保健計画・地区活動、成人保健活動、高齢者保健活動の展開についてグループワークによって学修する。	共同 (一部)
			公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	○	本講義は、障害者、難病、生活習慣病、要介護認定者、健康格差にある人々など「リスクを持った人々」、貧困など潜在的な健康リスクとなる「脆弱性を持った人々」を対象に、個人、家族、集団として保健師がおこなう支援の基本的な考え方と公衆衛生看護活動方法を学ぶ。障がい者(児)保健医療福祉活動・難病保健医療福祉活動・精神保健医療福祉活動・歯科口腔保健医療福祉活動における保健医療福祉対策を法令や制度の歴史的変遷、社会資源と関連させながら理解し、疾病や障がいの特性に応じた公衆衛生看護活動を学ぶ。保健活動において基本となる個から集団・地域、集団・地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを学び、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を習得することができる。また、支援を求めない人々、制度の編み目から抜け落ちる人々、複雑困難な健康課題を有する人々を支援する地域ケアシステムのあり方を理解することができる。 (共同 (一部) /全15回) (② 榮田絹代/9回) 要支援・要介護高齢者活動、障害者保健活動、障害児保健活動、難病保健活動、精神保健活動、感染症保健活動、歯科口腔保健活動、について必要な知識を修得し、「リスクを持った人々」「脆弱性を持った人々」に対する保健師の役割を理解する。 (② 榮田絹代・8 赤星琴美・③ 高本佳代子/6回) (共同) 障害者保健活動、難病保健活動、精神保健活動について事例を活用しシミュレーションを通して実践能力を高める。	共同 (一部)

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動展開論Ⅲ	○	本演習は、公衆衛生看護学実習を行う市町村/地域を対象に、地域特性や住民の健康、生活に関する情報を既存資料や地区視診等により情報収集し、整理・分析し、健康課題を検討する。また、地域診断から明らかとなった健康課題を解決するための社会資源の活用を検討し、不足する社会資源について、新たな事業を発案・企画し、事業化・予算化のプロセスをとおり、公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断及び施策化の技術を修得することができる。 (共同 (一部) /全15回) (③ 高本佳代子/12回) 地域診断の概念とプロセスを理解し、地域アセスメントを実施するための知識を修得する。 さらに、健康課題の解決に向けた新たな事業を生み出す計画の立て方を身につける。 (③ 高本佳代子・8 赤星琴美・② 榮田絹代/3回) (共同) 地域視診, 特定地域の地域診断, 課題解決のための事業化・施策化について具体的に学習してきたことを共有し、思考・判断力を深め、ニーズに合った事業化・施策化追求の態度を身につける。	共同 (一部)
			公衆衛生看護活動展開論Ⅳ	○	本演習は、産業保健については、労働環境および作業上の諸条件に関連して発生する可能性のある疾病・障害を防止し、個々の労働者の身体的・精神的・社会的健康と福祉を維持増進するため、産業保健に関するシステム、産業保健活動、産業保健における看護の位置付けと役割および具体的な保健師活動のあり方を学ぶ。学校保健については、教育の場における保健活動である保健管理（健康管理、環境管理、生活管理および生活指導）と保健教育（保健学習、保健指導）のあり方および学校保健安全法に基づく学校保健の役割と、担当する専門職、特に養護教諭の役割と機能について学ぶ。さらに、産業保健では、社会経済状況や雇用状況を踏まえたニーズや健康課題等、学校保健では、発達障害、療養等が必要な児童生徒への支援について学ぶ。学生は、地域ケアシステムをふまえて、産業保健・学校保健と行政の母子、成人、障害者保健活動等とのつながりについて理解することができる。 (共同 (一部) /全15回) (8 赤星琴美/6回) 産業保健における保健師の役割, 企業での産業保健・産業看護の位置づけ, 産業保健行政, 労働安全衛生法について学修する。学校に於ける公衆衛生看護として学校保健活動と養護教諭の役割や学校保健行政、学校保健安全法について知識を修得することができる。 (8 赤星琴美・② 榮田絹代・③ 高本佳代子/9回) (共同) 産業保健活動の実際として、職業性疾病・作業関連疾患・メンタルヘルスとその予防対策における産業看護職の役割についてグループワークにて学修を深める。さらに、学校保健活動をして健康診断・保健管理・保健教育と養護教諭の役割についてグループで学修を深めることができる。	共同 (一部)
			公衆衛生看護管理論Ⅰ	○	本講義は、公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成方法について学ぶ。 具体的には保健師活動における公衆衛生看護管理の目的と機能、事例管理、事業・業務管理、地区管理、情報管理、健康危機管理、組織・運営管理、人材育成・人材管理、予算管理、地域ケアの質の保証、保健師教育について学ぶ。また、個々の課題を集団の健康課題として捉え、地域の健康課題に対する解決・改善に向けた事業を展開するための情報収集、アセスメント、計画立案、関係部署、期間、住民への説明・調整・協議・交渉、予算案の作成、実施、評価について理解することができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	専門分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護管理論Ⅱ	○	本講義は、地域における健康危機管理の概念と方法や災害看護（特に平常時に必要な災害予防活動、災害予防対策期の支援、被災後の災害復旧・復興対策期の支援）における保健師活動の展開方法について学ぶ。行政機関・医療機関・民間企業・住民組織等と協働した地域における健康危機管理体制の整備、関係機関の連携・協働による健康危機管理活動の中での保健師の役割について理解を深める。また、大規模災害が頻発していることから、広域支援や受援の観点から広域的な視点を学ぶ。さらに、感染症保健活動、虐待予防といった健康危機管理に必要な知識も修得することができる。	
			公衆衛生看護学実習Ⅰ	○	本実習は、保健所や市町村の保健センターにて保健師の役割と保健活動の実践を学ぶ。 地域看護診断に基づいた健康課題を理解し、地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動の方法と実際の活動について学ぶ。また、地域で生活する人びとの健康レベルを把握し、疾病予防や健康の保持増進を目的として行われる家庭訪問や健康教育や健康相談の実践を学ぶ。さらに、事例管理、事業・業務管理、地区管理、情報管理、健康危機管理、組織・運営管理、人材育成・人材管理、予算管理の実践について学ぶ。具体的には、保健相談や健康診断、地域イベントの企画など、幅広い保健師の業務に参加し、地域住民とのコミュニケーションや協力関係の構築を基に、地域の健康ニーズに合ったアプローチ方法を身につけることができる。 （8 赤星琴美・② 榮田絹代・③ 高本佳代子）（共同）	共同
			公衆衛生看護学実習Ⅱ	○	本実習は、産業保健では、働く人々を取り巻く環境や健康問題を理解し、産業保健師の役割について学ぶ。特に働く人々の健康と安全を確保するための労働衛生管理体制、労働災害の防止や生活習慣病の予防をはじめとして健康保持増進のための健康支援の実践について学ぶ。学校保健では、学校における児童・生徒及び教職員の健康状態や学校教育及び学校保健の実態を理解し、成長発達段階における集団生活の役割及び学校保健活動の実践について学ぶ。 学生は、産業保健、学校保健と地域保健との連携の必要性を考察することができる。 （② 榮田絹代・8 赤星琴美・③ 高本佳代子）（共同）	共同

学校法人別府大学 設置認可等に係る組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
別府大学				別府大学				
文学部				文学部				
国際言語・文化学科	100	—	400	国際言語・文化学科	80	—	320	定員変更(△20)
史学・文化財学科	100	—	400	史学・文化財学科	100	—	400	
人間関係学科	70	—	280	人間関係学科	70	—	280	
食物栄養科学部				食物栄養科学部				
		3年次				3年次		
食物栄養学科	70	7	294	食物栄養学科	60	7	254	定員変更(△10)
発行食品学科	50	—	200	発行食品学科	50	—	200	
国際経営学部				国際経営学部				
国際経営学科	100	—	400	国際経営学科	100	—	400	
				看護学部				学部の設置(認可申請)
				看護学科	80	—	320	
計				計				
	490	7	1,974		540	7	2,174	
別科日本語課程				別科日本語課程				
	80	—	80		80	—	80	
別府大学大学院				別府大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
日本語・日本文学専攻博士前期課程	10	—	20	日本語・日本文学専攻博士前期課程	10	—	20	
日本語・日本文学専攻博士後期課程	3	—	9	日本語・日本文学専攻博士後期課程	3	—	9	
史学・文化財専攻博士前期課程	10	—	20	史学・文化財専攻博士前期課程	10	—	20	
史学・文化財専攻博士後期課程	3	—	9	史学・文化財専攻博士後期課程	3	—	9	
臨床心理学専攻修士課程	10	—	20	臨床心理学専攻修士課程	10	—	20	
食物栄養科学研究科				食物栄養科学研究科				
食物栄養学専攻修士課程	10	—	20	食物栄養学専攻修士課程	10	—	20	
計				計				
	46	—	98		46	—	98	
別府大学短期大学部				別府大学短期大学部				
食物栄養科	50	—	100	食物栄養科	40	—	80	定員変更(△10)
初等教育科	200	—	400	初等教育科	200	—	400	
専攻科初等教育専攻	15	—	30	専攻科初等教育専攻	15	—	30	
計				計				
	265	—	530		255	—	510	